

独立行政法人 農畜産業振興機構
養豚経営安定対策補完事業

養豚農業実態調査報告書

(全国集計結果)

令和4年度

令和5年3月

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)

はじめに

養豚農業実態調査は、養豚生産者を対象に養豚業におけるコスト削減や生産性向上の取組等の実態把握・分析をすることにより、養豚経営の体質強化に資することを目的に、農林水産省所管の独立行政法人農畜産業振興機構からの補助を受けて実施しています。

令和4年度の本調査では、「都道府県にある養豚生産者組織」及び「（一社）日本養豚協会」が把握している全養豚生産者に対して調査票（2,581件）を配布し、回答していただきました。回答が得られたのは681件で、このうち回答重複、経営中止、休業等の無効回答及び廃業を除いた648経営体（廃業予定を含む）について全国、地域別、子取り用雌豚頭数規模別等で集計・分析したものです。

基本的な経営実態を把握するため、経営形態、従業員数、後継者の有無、種豚頭数、飼養頭数、繁殖成績、肉豚出荷状況、共済への加入の有無、人工授精の実施状況、経営の動向など定型設問のほか、給与飼料、悪臭苦情、ふん尿処理方法、汚水浄化処理施設、豚肉生産に対する意識、アニマルウェルフェア、豚熱ワクチン等についての調査も行いました。また、今年度は新たな設問としてベンチマークの参加状況、豚熱ワクチン接種の際の実施者（家畜防疫員・知事認定獣医師）とその価格についての設問も追加しました。

（なお、衛生対策については昨年度から別事業にて調査・集計を実施しています。）

本調査の結果は、現場の実態を把握する貴重なデータであり、現場のニーズに沿った政策の企画立案やフォローアップにも用いられています。また、養豚生産者の皆様におかれましても、本調査結果をコスト削減や生産性向上のための経営判断の参考として活用いただければ幸いです。

報告書を作成するにあたり、調査にご協力いただきました養豚経営者の方々、また、調査票作成のご指導ならびに調査票の回収・集計作業等にご尽力いただきました方々に深謝申し上げます。

令和5年3月

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)
会長 香川 雅彦

■ 調査結果の概要

令和4年度の調査は、「都道府県にある養豚生産者組織（以下「都道府県養豚協会」という）」及び「（一社）日本養豚協会」が令和4年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象に調査を実施した。

本年度調査の令和4年度調査は、令和3年度と同様に原則経営体単位で集計した。

なお、回答数は、設問毎の回答数を示しているため、複数回答の設問については、回答数が回答経営体数を上回る場合がある。また、同じ項目でありながら回答数、回答経営体数に差異が生じているのは、クロス集計（経営タイプが一貫生産の子取り用豚豚頭数規模別の事故率等）の場合、対応する項目の回答数、回答経営体数が異なることによるものである。

□ 1. 調査回答状況

令和4年度の調査は、都道府県養豚協会及び当協会が令和4年8月1日現在確認できている2,581件の養豚生産者を対象（前年度調査において調査票を配布し回答がなくても廃業報告がなされなかった者を含む）に実施した。

回答が得られたのは681件（廃業等を含む）で、全国集計結果の集計に使用したのは廃業報告や経営中止・休業等の無効回答を合わせた33経営体を除いた648経営体である。

（注）経営体数は、農場を複数有し複数の都道府県に所在する経営体については都道府県ごとにカウントした。ただし、当該経営体が複数県まとめて回答してきた場合は1経営体としてカウントした。

□ 2. 経営関係

（1）経営形態

経営形態A	割合
個人経営（家族労働主体）	28.0
法人経営（農事組合法人・有限会社・株式会社）	65.6
上記以外の法人経営	1.1
農業協同組合法人（農協等）の直営養豚場	0.9
その他（都道府県、公益法人、学校法人等）	4.3

(%)

経営形態B	割合
会社、農協、民間養豚場等の契約・預託農場である	5.7
会社、農協、民間養豚場等の契約・預託農場ではない	94.3

(%)

（2）経営タイプ

経営タイプ	割合
一貫経営	86.0
肥育経営	9.5
繁殖経営	4.5

(%)

□3.従事者について

従事者数に回答があったのは640経営体で、従事者数合計は7,323人である。

従事者数の内訳は、家族1,122人、常勤雇員5,709人、非常勤雇員154人、その他（豚肉加工、販売等）338人である。1経営体当たりの合計平均従事者数は11.4人、家族2.8人、常勤雇用12.7人、非常勤雇用2.0人、その他12.1人である。

□4.後継者について

後継者の有無	割合	平均年齢
決まっている	26.6	36.7
対象者はいるが、現在は決まっていない	15.3	29.0
自分の年齢が若いので考えていない	15.6	-
後継者はいない・後継者は考えていない	24.1	-
経営形態が後継者と関係ない（株式会社等）	18.4	-

(%) (歳)

□5.飼養頭数について

子取り用雌豚の全頭数は266,116頭で、そのうち純粋種は46,319頭（17.4%）、交雑種は219,797頭（82.6%）である。交雑種の内訳は、LW:27.3%、WL:27.5%、LW・WLいずれか:19.5%、DB:0.1%、その他の組合せ:5.7%、海外ハイブリッド:19.8%である。

種雄豚の全頭数は9,243頭で、そのうち純粋種は6,183頭（66.9%）、交雑種は3,060頭（33.1%）である。

□6.肉豚の出荷状況（令和3年度の決算期間）

肉豚出荷日齢平均（生後日齢）	182.6日齢
平均出荷時体重	113.4kg
平均枝肉重量	74.7kg
1日平均増体重	621.0g/日

□7.繁殖・肥育等の成績（令和3年度の決算期間）

平均哺乳開始頭数	11.5頭
平均離乳頭数	10.3頭
平均育成率	90.2%
平均分娩率	85.5%
母豚回転数	2.3回

□8.家畜共済の加入状況について

家畜共済の加入率は全体の40.3%。共済に加入していない理由は「掛金に対して支払が見合わない」が41.6%で最も高い。

□9.交配について

自然交配のみが24.5%、人工授精のみが51.8%、自然交配と人工授精の併用が31.5%となっている。

自然交配での回数は「2回」74.5%、「3回」11.7%、「1回」10.2%。人工授精では「2回」56.2%、「3回」38.4%の順。自然交配と人工授精の併用では「自然交配1回+人工授精2回」が43.4%と最も高い。

人工授精における深部注入の実施については、「全て深部注入」34.5%、「深部注入と普通の人工授精を併用」25.5%、合わせて60.0%の農場で実施している。

□10.飼料について

給与飼料	割合
市販配合飼料のみ	82.5
市販配合飼料+自家配合飼料	13.7
自家配合飼料のみ	3.8

(%)

給与飼料内容	割合
配合飼料	91.3
エコフィード利用配合飼料	8.7
飼料用米利用配合飼料	10.6
飼料用米	7.7
子実用トウモロコシ	0.5
エコフィード（食品製造副産物等）	9.6
エコフィード（厨芥残さ等）	1.8
その他	6.4

(%)

□11.経営の推移と今後の動向

飼育頭数の推移

繁殖豚では、「増やした」経営体が10.3%で、前年度の12.0%より1.7ポイント減少。「減らした」は16.2%と、前年度の12.7%より3.5ポイント増加。「変更していない」は71.8%となっている。頭数では、「増やした」が8,106頭、「減らした」が3,163頭で全体で4,943頭増加している。

肥育豚では、「増やした」経営体が9.7%、「変わらない」が77.6%、「減らした」が12.2%である。頭数では、「増やした」が70,685頭、「減らした」が16,741頭で53,944頭増加している。

今後の養豚経営の意向

「経営を拡大する」が19.8%で前年度26.6%より5.4ポイント減少、「現状維持」が66.7%と前年度64.3%より2.4ポイント増加、「経営を縮小」が12.2%と前年度9.1%より3.6ポイント増加している。経営者の年代別では、「規模拡大予定」は「20・30才代」が46.2%と高く、「規模縮小予定」は、「70代～」の20.3%が目立って高い。

□12.豚肉生産に関する意識について

消費者ニーズを踏まえ、どのような品質の豚肉生産を目指しているかについては、「品質を保ちながら低コスト生産」57.8%、次いで「脂肪交雑の良いものなど特色ある豚肉生産」29.6%、「実需者のオーダーに基づき生産」24.7%、「SDGsやアニマルウェルフェアへの配慮など消費者の多様な価値観に対応した生産」20.6%となっている。

豚肉の品質のために取り組んでいることは、「飼料を工夫している」58.1%、次いで「飼養管理方法を工夫している」55.8%。

□13.環境対策について

近隣からの悪臭苦情については、「過去1年以内に悪臭苦情はない」が79.2%。

ふん尿の処理方法については、ふん(分離処理)については「堆肥化(開放式)」66.8%が最も高く、尿については「浄化処理」79.3%が最も高い。混合の処理方法については「堆肥化(開放式)」62.6%、次いで「浄化処理」40.3%、「堆肥化(密閉式)」17.7%の順。

汚水浄化処理施設については「持っている」78.9%で、「持っていない」21.1%のうち「浄化処理施設を新設する意向がある」のは15.7%。

□14.アニマルウェルフェアについて

アニマルウェルフェアの認知は84.5%。そのうち、畜産技術協会発行の飼養管理指針について「知っている」のは65.7%。

AWに配慮した飼養管理を行うにあたり課題となっていることは、「生産コストが上がる」52.0%、「農場生産性が下がる」42.3%、「対応する人員不足」39.3%、「飼養頭数を減らす必要がある」37.0%、「何から取り組んで良いのかわからない」22.2%。

□15.豚熱ワクチンについて

豚熱ワクチンの接種率は、「接種している」68.2%（「家畜防疫員が実施」32.7%+「知事認定獣医師が実施」35.5%）、「接種していない」30.1%、「接種済みの豚を購入」1.6%

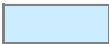


非接種農場の接種意向は地域によって隔たりが大きく、北海道は「接種したくない」68.6%、「九州・沖縄」は「接種範囲に指定されればしたい」67.1%。

地域別豚熱ワクチン接種により受けた影響は「影響はなかった」が61.2%（前年比6.4ポイント増）。影響があったとする内容は「種豚購入」22.8%、「精液購入」12.3%、「肉豚出荷」10.5%など。

豚熱ワクチンの接種に対する考え方は、「現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い」43.0%、「全国で接種すべきである」57.0%。

■1.調査回答状況	P.7
■2.経営関係	P.8
■3.従事者について	P.10
■4.後継者について	P.12
■5.飼養頭数について	P.13
■6.肉豚の出荷状況	P.18
■7.繁殖・肥育等の成績	P.20
■8.家畜共済の加入状況について	P.24
■9.交配について	P.25
■10.飼料について	P.28
■11.経営の推移と今後の動向	P.34
■12.豚肉生産に関する意識について	P.43
■13.環境対策について	P.45
■14.アニマルウェルフェアについて	P.51
■15.豚熱ワクチンについて	P.54
■16.ご意見・ご要望について	P.56
■付帯資料:養豚農業実態調査票	

■数表上の表記について

 全体より5%以上高いスコアにマーキング
 全体より5%以上低いスコアにマーキング
 N数が10未満のため参考値

注:集計結果は小数点1位で四捨五入して算出しているため、
合計値が必ずしも100%にはならない

■ 1. 調査回答状況

□ 地域別・規模別回答状況

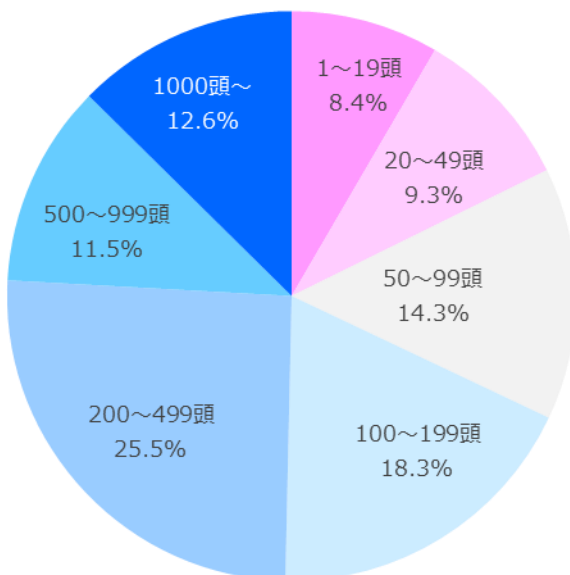
- ① 令和4年度の調査(令和4年8月1日現在)は、「令和3年度養豚基礎調査で回答があった養豚経営者または農場責任者」と「都道府県養豚協会等が確認できている養豚経営者又は農場責任者」を対象として2,581経営体に行い、回答が得られたのは681経営体である。
- ② 集計に使用したのは廃業報告や経営中止・休業等を合わせた33経営体を除く648経営体である。
- ③ 経営者の平均年齢は57.2歳で、前年より0.5歳低くなった。地域別では、最も平均年齢が高いのは「近畿」の65.4歳、最も低いのは「北陸」の52.9歳となっている。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では「200～499頭」が25.5%、出荷頭数規模別では「4,000～9,999頭」が24.2%と最も多い。

【表1】 回答状況・経営者性別・年齢：地域別 (N=681) 注)注：ネット・紙回答の重複を除く

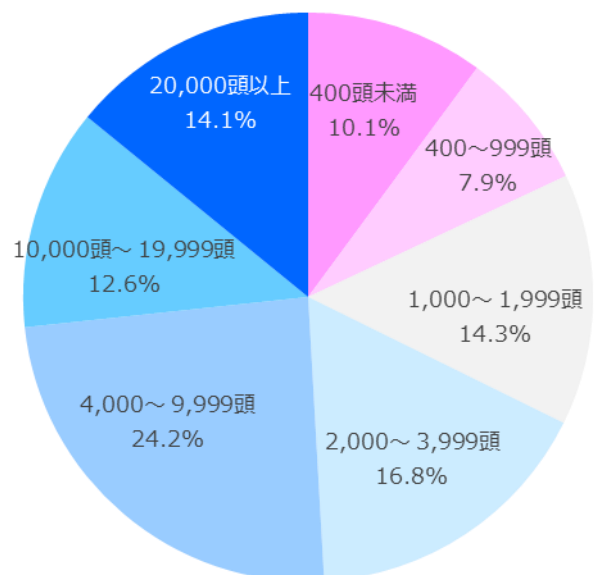
	回答数	廃業報告	無効回答数	有効回答数	回答者の性別			平均年齢
					男性	女性	不明	
全国	681	31	2	648	625	21	33	57.2
北海道・東北	161	7	1	153	147	3	10	56.6
関東	176	6	0	170	167	3	6	58.1
北陸	33	0	0	33	31	1	1	52.9
東海	79	5	0	74	75	2	2	58.0
近畿	14	1	0	13	11	1	2	65.4
中国・四国	39	1	0	38	32	2	5	61.4
九州・沖縄	179	11	1	167	162	9	7	56.0

(経営体数) (人) (歳)

【図1】 回答割合：子取り用雌豚飼養規模別 (N=546)



【図2】 回答割合：出荷頭数規模別 (N=554)



■ 2.経営関係

□ 経営形態

- ① 「法人経営」の割合が65.6%(424経営体)と最も高く、次いで「個人経営」の28.0%(181経営体)となっている。
- ② 地域別にみると全地域で「法人経営」の割合が一番高いが、「個人経営」の割合が高いのは「関東」33.5%(57経営体)、「東海」32.9%(24経営体)。また「法人経営」の割合が高いのは「北海道・東北」69.9%(107経営体)、「北陸」72.7%(24経営体)となっている。

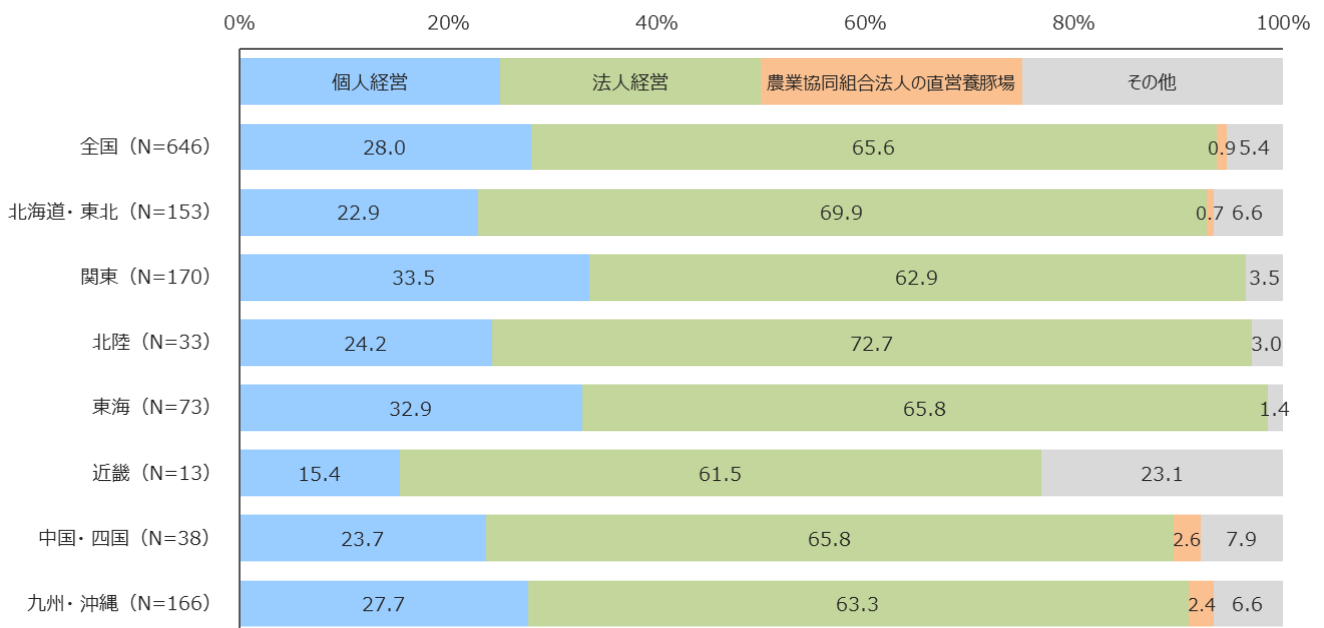
【表2】 経営形態：地域別 (N=646)

	N=	個人経営*	法人経営**	それ以外の法人経営	農業協同組合法人 (農協等)の直営養豚場	その他***
全国	646	181	424	7	6	28
うち契約・預託	36	13	20	1	2	0
北海道・東北	153	35	107	3	1	7
関東	170	57	107	1	0	5
北陸	33	8	24	0	0	1
東海	73	24	48	0	0	1
近畿	13	2	8	0	0	3
中国・四国	38	9	25	0	1	3
九州・沖縄	166	46	105	3	4	8

(経営体数) (経営体数)

*家族労働主体 **農事組合法人、有限会社、株式会社 ***都道府県、公益法人、学校法人等

【図3】 経営形態：地域別 (N=646)



□経営タイプ

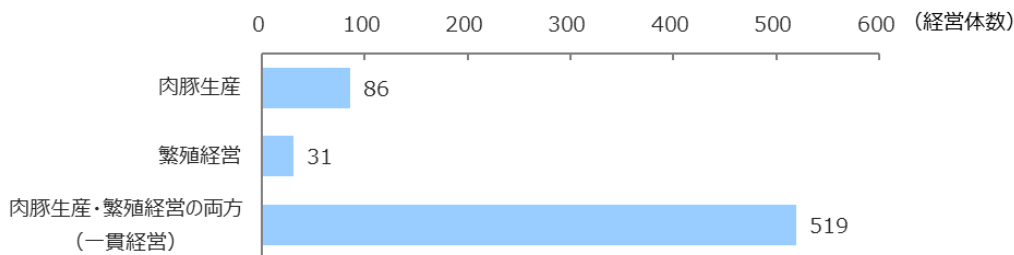
- ① 経営タイプでは、「一貫経営」が最も多く、次いで「肥育経営」、「繁殖経営」となっている。
- ② マルチサイト経営に取り組んでいる農家は81経営体で、内訳は「【肥育】肥育豚」の農場が74経営体と最も多い。
- ③ 繁殖経営の内訳では「子取り用雌豚(PS)」が18経営体と最も多い。

[表3] 経営タイプ：地域別 (N=598)

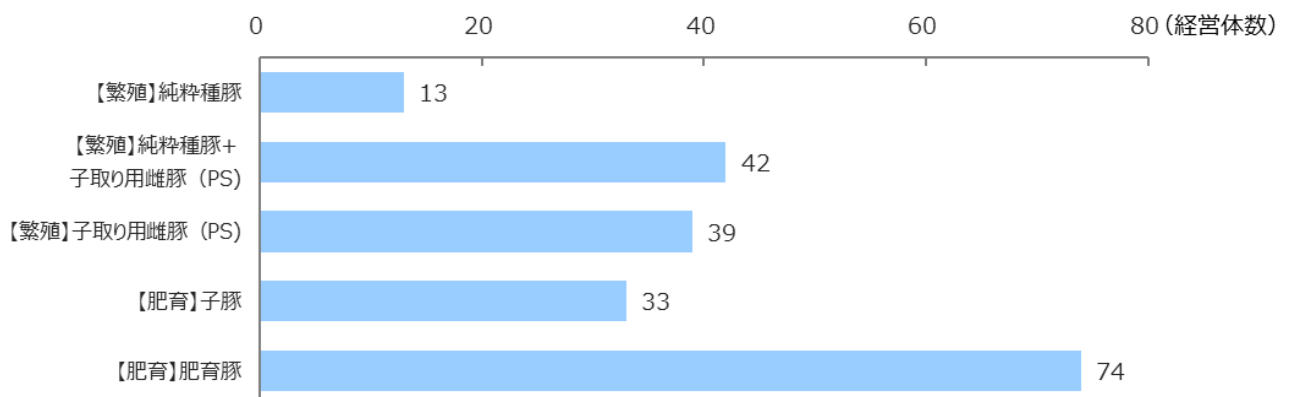
	N=	一貫経営	肥育経営	繁殖経営
全国	598	86.0% (514)	9.5% (57)	4.5% (27)
北海道・東北	139	86.3% (120)	9.4% (13)	4.3% (6)
関東	159	91.2% (145)	6.3% (10)	2.5% (4)
北陸	30	86.7% (26)	13.3% (4)	0.0% (0)
東海	70	87.1% (61)	7.1% (5)	5.7% (4)
近畿	13	61.5% (8)	38.5% (5)	0.0% (0)
中国・四国	35	82.9% (29)	14.3% (5)	2.9% (1)
九州・沖縄	152	82.2% (125)	9.9% (15)	7.9% (12)

(経営体数) (% (経営体数))

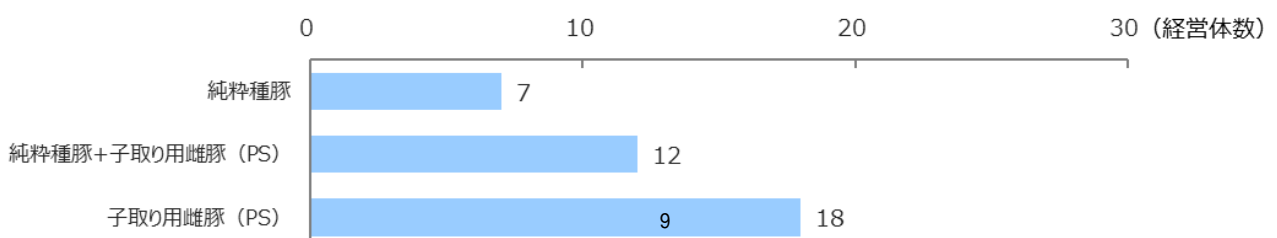
[図4] 肉豚生産農場数：全国 (N=636)



[図5] マルチサイト経営の内訳：複数回答可・全国 (N=81)



[図6] 繁殖経営の内訳：複数回答可・全国 (N=30)



■ 3. 従事者について

□ 従業員数

- ① 回答のあった経営体は640で、「常勤雇用」が最も多く5,709人、次いで「家族」1,122人だった。前年と比較すると「常勤雇用」689人減(前年比89.2%)、「家族」136人減(同89.1%)、「非常勤雇用」27人減(同85.0%)、「その他」352人減(同48.9%)、全体では1204人減(同85.9%)となっている。
- ② 従事者の数については、「足りている」72.3%。前年の71.4%よりも0.9ポイント増。
- ③ 規模別の平均従事者数をみると、前年と比較して「その他」以外は大きな変動はない。「1,000頭～」の「その他」は前年が74.5人と高かったこともあるが、前年比25.5%となっている。

[表4] 雇用形態別養豚従事者人数：複数回答可・全国 (N=640)

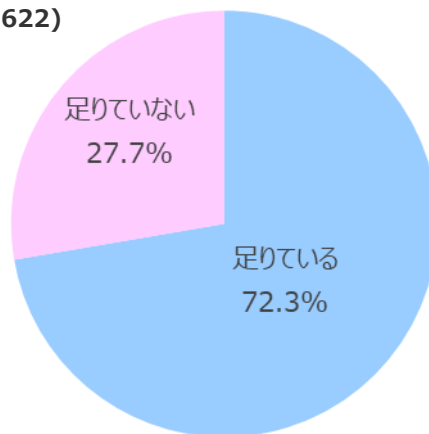
	合計	家族労働*	常勤雇用**	非常勤雇用***	その他****	
全体	640経営体	64.2%(411)	70.9%(454)	12.5%(80)	4.4%(28)	(%(経営体数))
従事者合計	7,323人	15.3%(1,122)	78.0%(5,709)	2.1%(154)	4.6%(338)	(%(人))
平均値		2.8	12.7	2.0	12.1	(人)
最大値		35	227	10	120	(人)
最小値		1	1	1	1	(人)

*経営主本人、配偶者、子、孫、きょうだい、父母、祖父母等 **社員、契約社員、パート、アルバイト

必要な日、必要な時間で雇用 *豚肉加工・販売など担当

注：都道府県試験場、学校法人などは、飼養頭数と従事者の数値が一般的な養豚農場とは異なるため除外している

[図7] 従業員の充足度:全国 (N=622)



[表5] 雇用形態別養豚従事者平均人数：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=543)

	N=	家族労働	常勤雇用	非常勤雇用	その他
全体	543	2.8	12.7	2.0	12.1
1～19頭	44	2.0	3.5	2.5	35.6
20～49頭	50	2.2	4.9	2.7	1.0
50～99頭	78	2.6	3.9	1.3	1.0
100～199頭	100	2.8	3.0	1.8	7.3
200～499頭	139	3.5	6.8	1.8	7.0
500～999頭	63	3.0	15.1	1.7	5.8
1,000頭～	69	2.5	43.7	4.0	19.0

(経営体数)

(人)

*「1～19頭」で「その他」の平均値が高いのは、農業高校の回答が含まれたため

【表6】 雇用形態別養豚従事者：複数回答可・地域別 (N=640)

	N=	家族労働	常勤雇員	非常勤雇員	その他
全国	640	1.7	8.5	0.2	0.5
北海道・東北	152	2.6	13.3	1.7	10.5
関東	168	2.5	14.1	2.1	11.0
北陸	32	4.1	10.4	2.0	3.0
東海	72	3.3	8.5	1.3	7.2
近畿	12	2.2	16.8	2.8	3.0
中国・四国	38	2.6	9.4	2.0	40.7
九州・沖縄	166	2.8	13.7	2.2	8.4

(経営体数)

(人)

【表7】 雇用形態別養豚従事者平均人数：子取り用雌豚飼養規模別 (N=540)

	N=	家族労働のみ	家族労働と常勤雇員	家族労働と非常勤雇員	家族労働と常勤雇員と非常勤雇員	常勤雇員のみ	常勤雇員と非常勤雇員	非常勤雇員のみ
全体	540	2.4 (127)	12.1 (171)	3.7 (10)	13.2 (35)	17.6 (174)	18.5 (22)	1.0 (1)
1～19頭	41	1.9 (16)	3.8 (4)	-	13.0 (1)	4.1 (17)	6.3 (3)	-
20～49頭	50	2.1 (33)	6.8 (4)	2.5 (2)	-	4.7 (6)	9.8 (5)	-
50～99頭	78	2.6 (47)	5.4 (17)	4.3 (4)	6.0 (2)	6.7 (7)	-	1.0 (1)
100～199頭	100	3.1 (28)	5.3 (39)	3.8 (4)	5.9 (11)	6.1 (16)	6.5 (2)	-
200～499頭	139	5.7 (3)	9.0 (66)	-	9.0 (15)	9.9 (48)	13.1 (7)	-
500～999頭	63	-	17.7 (20)	-	14.0 (4)	16.8 (37)	10.0 (2)	-
1,000頭～	69	-	38.4 (21)	-	87.5 (2)	44.9 (43)	76.0 (3)	-

(経営体数)

(人 (回答者数))

【表8】 雇用形態別養豚従事者平均人数：地域別 (N=636)

	N=	家族労働のみ	家族労働と常勤雇員	家族労働と非常勤雇員	家族労働と常勤雇員と非常勤雇員	常勤雇員のみ	常勤雇員と非常勤雇員	非常勤雇員のみ
全国	636	2.4 (166)	12.1 (189)	3.7 (15)	13.2 (40)	17.6 (201)	18.5 (24)	1.0 (1)
北海道・東北	152	2.1 (31)	13.6 (40)	4.0 (3)	8.2 (11)	17.4 (57)	14.1 (10)	-
関東	168	2.3 (52)	11.3 (53)	3.3 (3)	23.7 (12)	18.8 (40)	33.4 (7)	1.0 (1)
北陸	32	2.8 (8)	8.9 (9)	-	8.2 (5)	22.6 (9)	10.0 (1)	-
東海	72	2.5 (20)	13.0 (29)	-	11.3 (3)	9.8 (19)	-	-
近畿	12	2.0 (2)	60.5 (2)	3.0 (1)	12.3 (4)	3.7 (3)	-	-
中国・四国	37	2.8 (8)	8.8 (9)	3.0 (1)	11.0 (1)	11.3 (18)	-	-
九州・沖縄	163	2.7 (45)	10.3 (47)	4.0 (6)	7.5 (4)	21.6 (55)	9.0 (6)	-

(経営体数)

(人 (回答者数))

■ 4.後継者について

□後継者について

- ① 回答があったのは635経営体で、うち「決まっている」が26.6% (169経営体) で候補者の平均年齢は36.7歳、「対象者はいるが、現在は決まっていない」が15.3% (97経営体) で対象者の平均年齢は29.0歳。「後継者はいない・考えていない」が24.1% (153経営体) となっている。前年比でそれぞれ、1.0ポイント減、3.5ポイント減、3.0ポイント増となっている。
- ② 「経営形態が後継者と関係がない」は18.4%で、前年度の17.9%から0.5ポイント増となっている。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「(後継者が)決まっている」との回答が最も多かったのが100～199頭規模で、35.4%の農場で後継者が決まっている。逆に「後継者がいない・考えていない」と最も回答したのは20～49頭規模で48.0%であり、約半数に後継者がいないとの結果が出ている。

[表9] 後継者の有無・平均年齢：全国 (N=635)

	決まっている	対象者はいるが、現在は決まっていない	自分の年齢が若いので考えていない	後継者はいない・考えていない	経営形態が後継者と関係がない (株式会社等)	
回答経営体数	169	97	99	153	117	
割合 (%)	26.6	15.3	15.6	24.1	18.4	(%)
年齢回答経営体数	165	90	-	-	-	
平均年齢	36.7	29.0	-	-	-	(歳)

[表10] 後継者の有無：子取り用雌豚飼養規模別 (N=541)

	N=	決まっている	対象者はいるが、現在は決まっていない	自分の年齢が若いので考えていない	後継者はいない・考えていない	経営形態が後継者と関係がない (株式会社等)	
全体	541	26.4 (143)	16.3 (88)	16.1 (87)	22.4 (121)	18.9 (102)	
1～19頭	45	11.1 (5)	22.2 (10)	2.2 (1)	17.8 (8)	46.7 (21)	
20～49頭	50	24.0 (12)	8.0 (4)	4.0 (2)	48.0 (24)	16.0 (8)	
50～99頭	78	24.4 (19)	12.8 (10)	12.8 (10)	41.0 (32)	9.0 (7)	
100～199頭	99	35.4 (35)	18.2 (18)	14.1 (14)	27.3 (27)	5.1 (5)	
200～499頭	139	26.6 (37)	15.1 (21)	22.3 (31)	16.5 (23)	19.4 (27)	
500～999頭	62	25.8 (16)	21.0 (13)	21.0 (13)	3.2 (2)	29.0 (18)	
1,000頭～	68	27.9 (19)	17.6 (12)	23.5 (16)	7.4 (5)	23.5 (16)	
		(経営体数)				(% (経営体数))	

■ 5. 飼養頭数について

□ 子取り用雌豚

- ① 子取り用雌豚の全飼養頭数は266,116頭で、前年の315,320頭から49,204頭減となっている。そのうち「純粋種」は46,319頭(17.4%)で、前年度の17.8%から飼養割合が0.4ポイント減少。
- ② 「純粋種」で最も頭数が多かったのは「多産系母豚(TOPIGS・ダンブレッド等)」の17,369頭で、「純粋種」中の37.5%、全子取り用雌豚中の6.5%となっている。

[表11] 子取り用雌豚飼養頭数：地域別 (N=546)

	N =	総頭数	地域割合	純粋種	交雑種
全国	546	266,116	100.0	17.4 (46,319)	82.6 (219,797)
北海道・東北	131	64,000	24.0	9.9 (6,343)	90.1 (57,657)
関東	148	76,767	28.8	22.0 (16,875)	78.0 (59,892)
北陸	26	10,138	3.8	12.7 (1,284)	87.3 (8,854)
東海	63	17,794	6.7	16.8 (2,997)	83.2 (14,797)
近畿	8	11,158	4.2	6.8 (759)	93.2 (10,399)
中国・四国	33	12,078	4.5	6.2 (751)	93.8 (11,327)
九州・沖縄	137	74,181	27.9	23.3 (17,310)	76.7 (56,871)
	(経営体数)	(頭数)	(%)		(% (頭数))

[表12] 子取り用雌豚飼養頭数・品種別：地域別 (N=546)

	総頭数	純粋種計	純粋種						
			ランドレース/L	大ヨークシャー/W	中ヨークシャー/Y	パークシャー/B	デュロック/D	多産系母豚	その他
全国	266,116	46,319	7,826	8,096	58	10,611	1,491	17,369	868
北海道・東北	64,000	6,343	1,555	1,974	1	415	340	1,572	486
関東	76,767	16,875	1,834	2,284	56	279	456	11,688	278
北陸	10,138	1,284	427	588	0	20	61	113	75
東海	17,794	2,997	451	580	0	250	261	1,447	8
近畿	11,158	759	344	347	0	0	68	0	0
中国・四国	12,078	751	208	207	0	179	17	137	3
九州・沖縄	74,181	17,310	3,007	2,116	1	9,468	288	2,412	18
	(頭)								(頭)

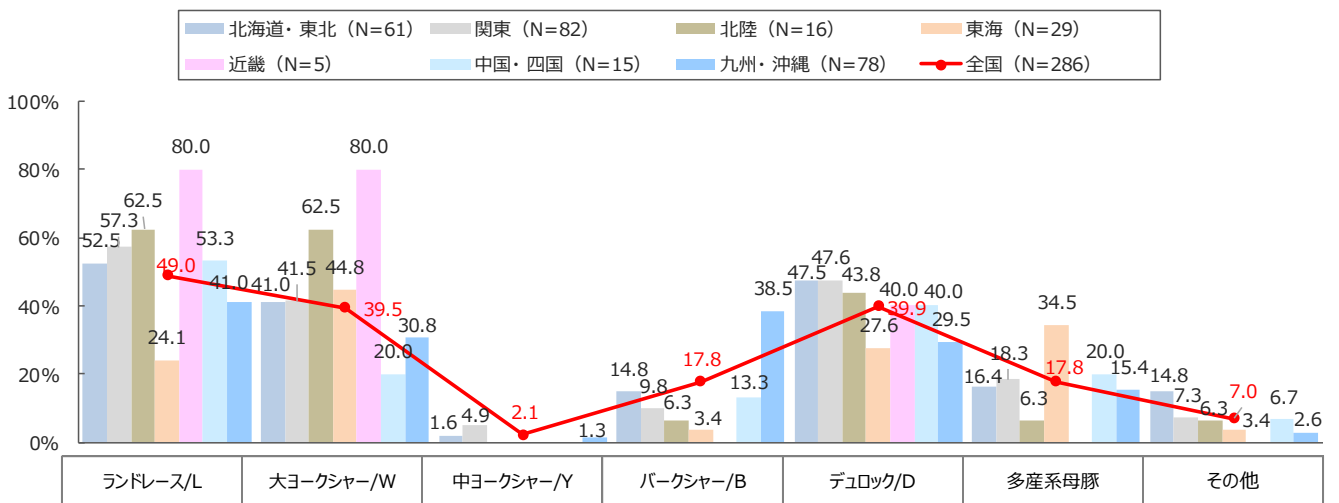
	交雑種計	交雑種						
		LW	WL	LW、WL いずれか	DB	BD	その他の 組み合わせ	海外 ハイブリッド
全国	219,797	59,943	60,540	42,925	219	38	12,539	43,593
北海道・東北	57,657	8,560	13,879	8,807	99	13	3,885	22,414
関東	59,892	19,754	12,241	22,359	120	0	2,023	3,395
北陸	8,854	1,201	5,879	489	0	0	1,266	19
東海	14,797	2,407	6,835	1,697	0	0	1,204	2,654
近畿	10,399	79	9,570	750	0	0	0	0
中国・四国	11,327	5,179	527	1,520	0	0	1,955	2,146
九州・沖縄	56,871	22,763	11,609	7,303	0	25	2,206	12,965
	(頭)							(頭)

[表13] 子取り用雌豚頭数：複数回答可・全国 (N=546)

		合計	小計	純粋種						
				ランドレース /L	大ヨークシャー /W	中ヨークシャー /Y	パークシャー /B	デュロック /D	多産系母豚	その他
全国回答数 (複数回答可)	経営体数	1,064	495	140	113	6	51	114	51	20
	回答割合		-	25.6	20.7	1.1	9.3	20.9	9.3	3.7
	平均頭数		106.1	55.9	71.6	9.7	208.1	13.1	340.6	43.4
全国頭数	子取り用雌豚	266,116	46,319	7,826	8,096	58	10,611	1,491	17,369	868
	頭数割合		100.0	16.9	17.5	0.1	22.9	3.2	37.5	1.9
	全頭数割合	100.0	17.4	2.9	3.0	0.0	4.0	0.6	6.5	0.3

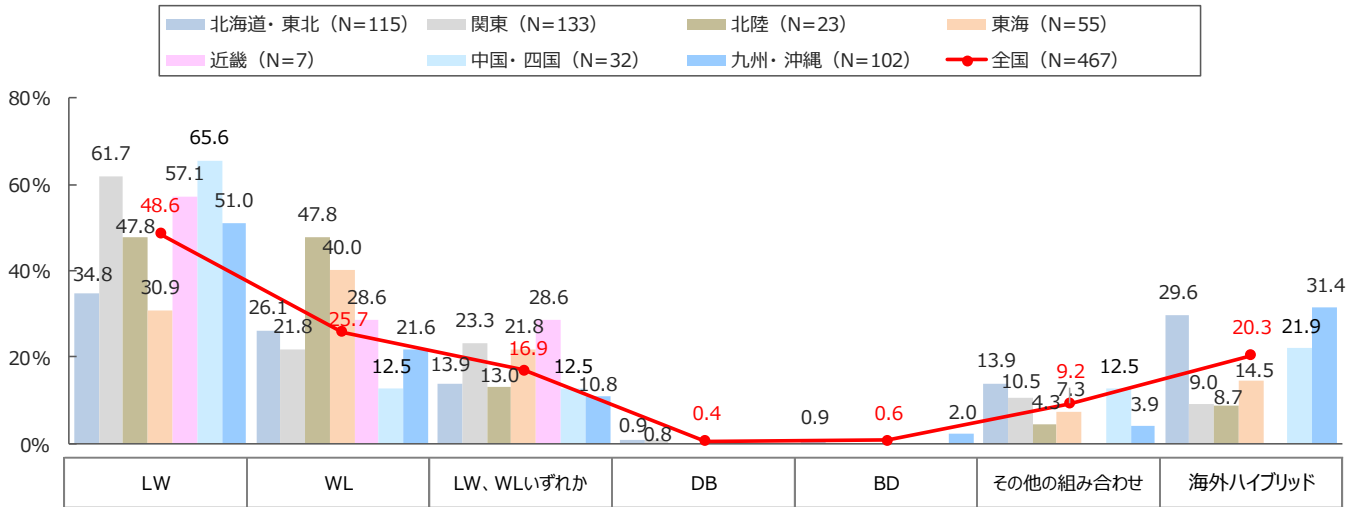
		小計	交雑種						
			LW	WL	LW、WL いずれか	DB	BD	その他の 組み合わせ	海外 ハイブリッド
全国回答数 (複数回答可)	経営体数	569	227	120	79	2	3	43	95
	回答割合	-	41.6	22.0	14.5	0.4	0.5	7.9	17.4
	平均頭数	312.1	264.1	504.5	543.4	109.5	12.7	291.6	458.9
全国頭数	子取り用雌豚	219,797	59,943	60,540	42,925	219	38	12,539	43,593
	頭数割合	100.0	27.3	27.5	19.5	0.1	0.0	5.7	19.8
	全頭数割合	82.6	22.5	22.8	16.1	0.1	0.0	4.7	16.4

[図8] 子取り用雌豚【純粋種】の飼養頭数割合：複数回答可・地域別 (N=286)



- ③ 交雑種で最も飼養頭数が多いのは「WL」で60,540頭で、「交雑種」中の27.5%、全子取り用雌豚中の22.8%。次いで「LW」で59,943頭で、「交雑種」中の27.3%、全子取り用雌豚中の22.5%である。
- ④ 「海外ハイブリッド」は、「九州・沖縄」で31.4%、「北海道・東北」も29.6%と高い割合で生産を行っている。

【図9】 子取り用雌豚【交雑種】の飼養頭数割合：地域別 (N=467)



【表14】 子取り用雌豚飼養規模割合：地域別 (N=546)

	N=	1~19頭	20~49頭	50~99頭	100~199頭	200~499頭	500~999頭	1,000頭~
全国	546	8.4	9.3	14.3	18.3	25.5	11.5	12.6
北海道・東北	131	10.7	8.4	5.3	15.3	29.0	15.3	16.0
関東	148	5.4	10.1	16.9	27.0	19.6	9.5	11.5
北陸	26	3.8	7.7	30.8	15.4	34.6	0.0	7.7
東海	63	4.8	7.9	27.0	14.3	30.2	11.1	4.8
近畿	8	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5
中国・四国	33	15.2	12.1	12.1	9.1	27.3	15.2	9.1
九州・沖縄	137	8.0	10.2	12.4	16.1	25.5	11.7	16.1

(経営体数)

(%)

□種雄豚

- ① 種雄豚の全体頭数は9,243頭で、前年の10,566頭と比べると87.5ポイント。「純粋種」の総頭数は6,183頭、最も多く利用されているのは「デュロック」の4,205頭で純粋種の68.0%である。交雑種の中では「海外ハイブリッド」が最も多く2,134頭で交雑種の69.8%を占めている。
- ② 地域別では、種雄豚が多いのは「北海道・東北」3,637頭、「九州・沖縄」2,111頭、「関東」1,994頭、の順で、この地域で全体の83.8%を占めている。

[表15] 種雄豚飼養頭数：地域別 (N=485)

	N=	総頭数	地域割合	純粋種	交雑種
全国	485	9,243	100.0	66.9 (6,183)	33.1 (3,060)
北海道・東北	113	3,637	23.3	39.7 (1,445)	60.3 (2,192)
関東	135	1,994	27.8	87.2 (1,738)	12.8 (256)
北陸	24	323	4.9	80.2 (259)	19.8 (64)
東海	49	698	10.1	91.3 (637)	8.7 (61)
近畿	5	126	1.0	100.0 (126)	0.0 (0)
中国・四国	32	354	6.6	57.9 (205)	42.1 (149)
九州・沖縄	127	2,111	26.2	84.0 (1,773)	16.0 (338)

(経営体数) (頭) (%) (% (頭数))

[表16] 種雄豚飼養頭数・品種：地域別 (N=485)

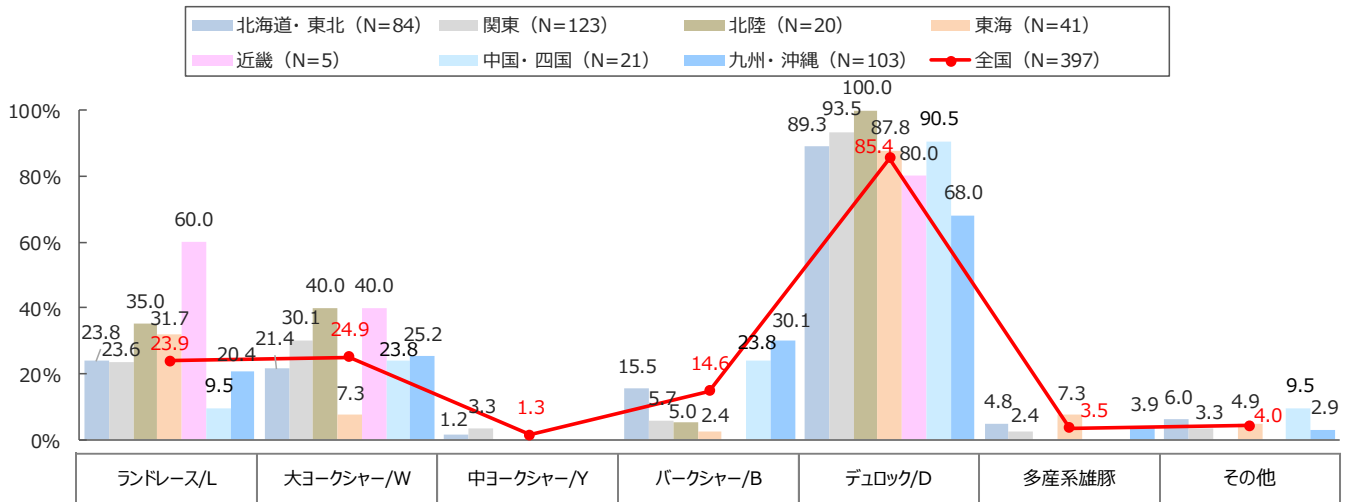
	総頭数	純粋種計	純粋種						多産系種豚	その他
			ランドレース /L	大ヨークシャー /W	中ヨークシャー /Y	バークシャー /B	デュロック /D			
全国	9,243	6,183	528	487	12	599	4,205	189	163	
北海道・東北	3,637	1,445	105	98	1	123	1,020	29	69	
関東	1,994	1,738	184	147	11	45	1,219	106	26	
北陸	323	259	21	30	0	5	203	0	0	
東海	698	637	34	14	0	14	554	18	3	
近畿	126	126	48	47	0	0	31	0	0	
中国・四国	354	205	4	10	0	16	168	0	7	
九州・沖縄	2,111	1,773	132	141	0	396	1,010	36	58	

(頭)

	交雑種計	交雑種						
		LW	WL	LW、WL いずれか	DB	BD	その他の 組み合わせ	海外 ハイブリッド
全国	3,060	482	139	93	49	80	83	2,134
北海道・東北	2,192	301	75	0	10	23	16	1,767
関東	256	104	10	66	6	10	19	41
北陸	64	0	49	3	0	3	9	0
東海	61	0	0	5	0	5	3	48
近畿	0	0	0	0	0	0	0	0
中国・四国	149	23	0	0	19	2	17	88
九州・沖縄	338	54	5	19	14	37	19	190

(頭)

[図10] 種雄豚【純粋種】の飼養頭数割合：地域 (N=397)



□全体頭数

- ① 本調査における豚の飼養頭数は、「子取り用雌豚」が266,116頭、「種雄豚」9,243頭、「育成豚」(繁殖予定で未交配の雄または雌豚)42,914頭、「子豚」1,432,883頭、「肥育豚」1,785,188頭で、全飼養頭数は3,536,344頭となっている。
- ② 1経営体当たり平均飼養頭数は、「子取り用雌豚」で487.4頭、全体で5,845.2頭となっている。

[表17] 飼養頭数：全国 (N=604)

全国	飼養頭数合計	子取り用雌豚*	種雄豚*	育成豚**	子豚***	肥育豚****	
回答経営体数	604	546	485	460	513	556	(経営体数)
頭数合計	3,536,344	266,116	9,243	42,914	1,432,883	1,785,188	
1経営体当たり平均頭数	5,845.2	487.4	19.1	93.3	2,793.1	3,210.8	(頭数)

*育成豚を除く **繁殖利用予定で未交配の雌または雄

子豚舎・子豚豚房で飼養しているもの+哺乳中のもの *肥育舎・肥育豚房で飼養しているもの

□海外メーカーの種豚導入状況

- ① 海外メーカーの種豚導入状況は「導入していない」が72.6%。また「導入している」うち平均頭数は「種雄豚」が13.2頭、「子取り用雌豚」が536.0頭となっている。

[表18] 海外メーカーの種豚導入状況：全国 (N=554)

N=554	導入している (飼育している)		導入していない	
	種雄豚	子取り用雌豚		
回答経営体数	152		402	(経営体数)
割合	27.4		72.6	(%)
平均頭数	13.2	536.0		(頭数)
最高頭数	100	10,000		(頭数)
最低頭数	1	1		(頭数)

■ 6.肉豚の出荷状況（令和3年8月～令和4年7月）

□ 総出荷頭数

- ① 総出荷頭数は、肉豚出荷のほか、繁殖豚（子取り用雌豚・雄豚）の廃用、子豚出荷（販売などのほか、同一経営の農場間移動も含む）、種豚候補豚の出荷など、農場から外部に出荷したすべての豚の頭数を調べたものである。
- ② 肉豚を出荷している経営体は554経営体で、年間（令和3年8月～令和4年7月）の肉豚出荷頭数は5,846,629頭、1経営体当たり平均10,553.5頭である。
- ③ 子豚を出荷している経営体は97経営体で、年間（令和3年8月～令和4年7月）の総出荷頭数は597,905頭で、1経営体当たり平均6,164.0頭である。

【表19】 導入頭数：全国（N=430）

全国	子取り用雌豚		肥育	
	純粋種豚導入頭数	子取り用雌豚（PS） 導入頭数	肥育豚導入頭数	
回答経営体数	258	239	75	(経営体数)
頭数合計	8,123	40,185	580,293	
1経営体当たり平均頭数	31.5	168.1	7737.2	(頭数)

【表20】 総出荷頭数：全国（N=581）

全国	年間肉豚出荷頭数	種豚候補豚（純粋種・ F1等）の販売頭数	年間肉用子豚 出荷頭数（販売）	繁殖豚（雄、雌） 年間廃用頭数	
回答経営体数	554	56	97	453	(経営体数)
頭数合計	5,846,629	68,586	597,905	107,402	
1経営体当たり平均頭数	10,553.5	1,224.8	6,164.0	237.1	(頭数)

□ 肉豚出荷頭数

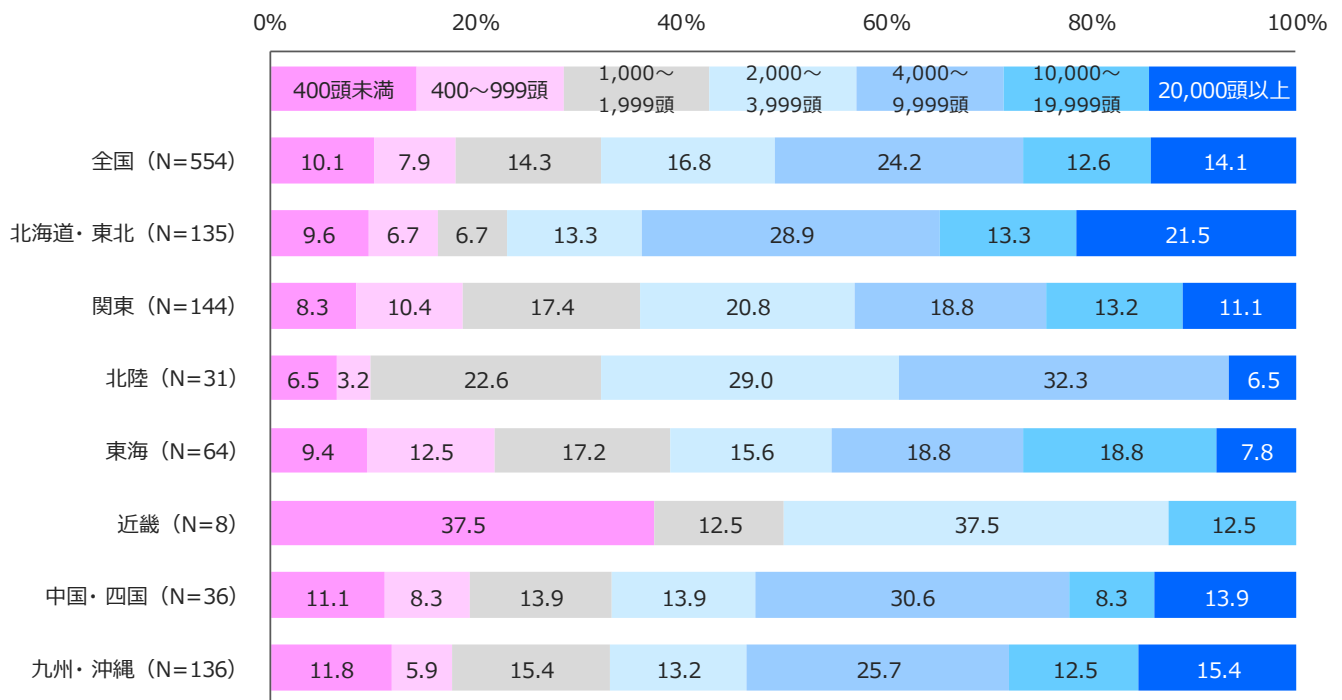
- ① 年間肉豚出荷頭数を出荷規模別で見ると、「4,000～9,999頭」の経営体数が24.2%と最も多く、次いで「2,000～3,999頭」が16.8%となっている。
- ② 一方、頭数割合では、「20,000頭以上」が62.0%、「10,000～19,999頭」が16.6%、「4,000～9,999頭」が14.5%で、この3階層の経営体（50.9%）で出荷頭数の93.1%を占めている。

【表21】 年間肉豚出荷頭数：全国（N=554）

	合計	1～399頭	400～ 999頭	1,000～ 1,999頭	2,000～ 3,999頭	4,000～ 9,999頭	10,000～ 19,999頭	20,000頭～
回答経営体数	554	10.1 (56)	7.9 (44)	14.3 (79)	16.8 (93)	24.2 (134)	12.6 (70)	14.1 (78)
全頭数	5,846,629	0.1 (7,800)	0.5 (29,467)	1.9 (109,190)	4.4 (256,813)	14.5 (849,144)	16.6 (970,038)	62.0 (3,624,177)

上段：（%（経営体数））
下段：（%（頭数））

[図11] 肉豚出荷規模別経営体割合(%) : 地域別 (N=554)



□肉豚出荷日齢

- ① 肉豚の平均出荷時日齢は182.6日で、前年の182.8日から0.2日短くなっている。出荷時の生体重は113.4kgで前年の113.2kgから0.2kg増、平均枝肉重量は74.7kgで前年の75.7kgより1.0kg減となっている。1日平均増体量は621.0gで前年の619.3gから1.7g増えており、発育に大きな変化はなく、歩留まりにも大きな変化はないことがわかる。
- ② 地域別でみると、出荷日齢では「九州・沖縄」で190.7日と最も長い。「九州・沖縄」では鹿児島県において飼養日数の長いパークシャーが多く飼養されていることが影響していると思われる。
- ③ 出荷日齢が最も短いのは「北海道・東北」の174.5日、1日平均増体量が最も大きいのは「東海」の655.2gで、出荷時の生体重が最も大きいのも「東海」の118.2kgである。枝肉重量が最も大きいのは「中国・四国」の78.9kgである。

[表22] 肉豚出荷日齢 : 地域別 (N=549)

	肉豚出荷日齢平均*	肉豚出荷生体重平均	肉豚1頭当たり 枝肉重量平均	1日平均増体重**
全国	182.6	113.4	74.7	621.0
北海道・東北	174.5	113.0	73.0	647.6
関東	183.3	113.2	76.5	617.6
北陸	183.1	108.2	78.1	590.9
東海	180.4	118.2	72.0	655.2
近畿	187.4	106.4	75.0	567.8
中国・四国	180.2	117.8	78.9	653.7
九州・沖縄	190.7	111.8	74.0	586.3

*生後日数 **出荷生体重÷出荷日齢

■ 7.繁殖・肥育等の成績（令和3年8月～令和4年7月）

□ 繁殖成績

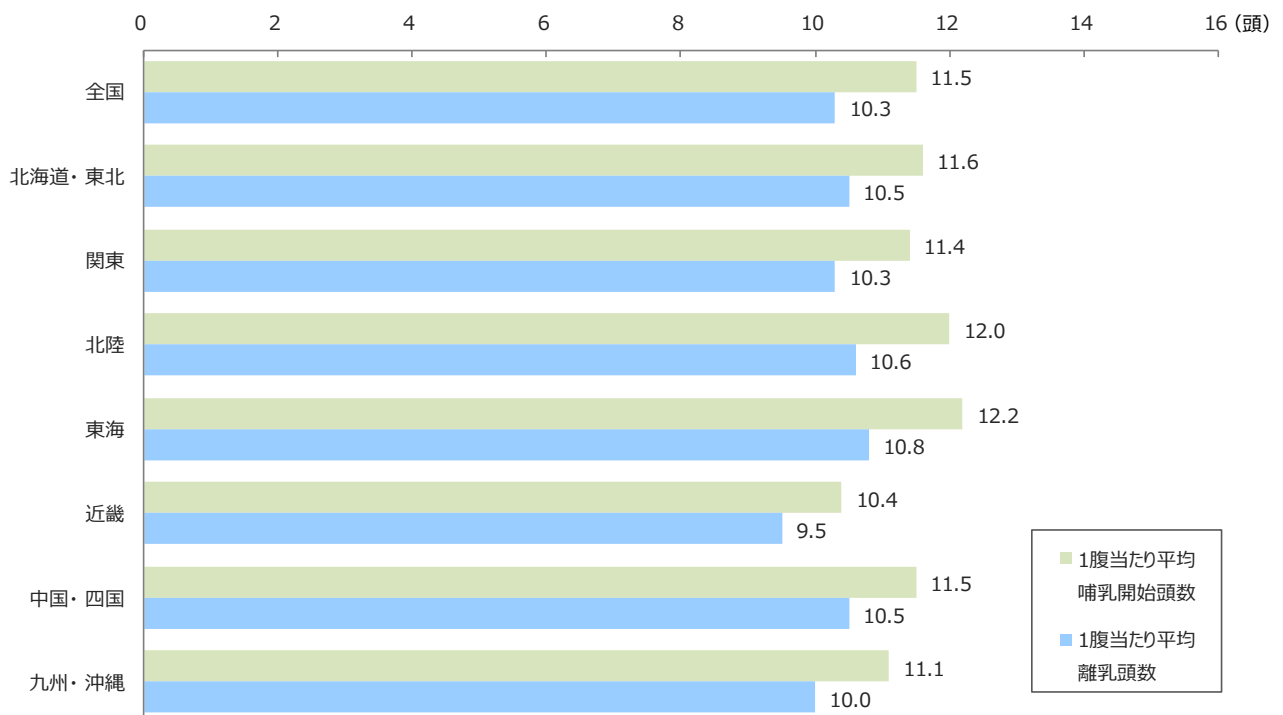
- ① 1腹当たりの「平均哺乳開始頭数」は11.5頭、「平均離乳頭数」は10.3頭、「平均育成率」は90.2%で前年度より増減なし、繁殖成績は横ばいである。
- ② 「年間平均種付け頭数」は「関東」の1,721.9頭、「年間平均分娩頭数」も「関東」の1,461.6頭が最も多い。
- ③ 「平均分娩率」は「北海道・東北」86.7%、「九州・沖縄」86.6%と高く、「一腹当たり平均産子数」は「北陸」13.3頭、「東海」13.2頭が多い。
- ④ 「母豚回転数」は地域による差はほとんどみられない。

【表23】 繁殖成績：地域別（N=534）

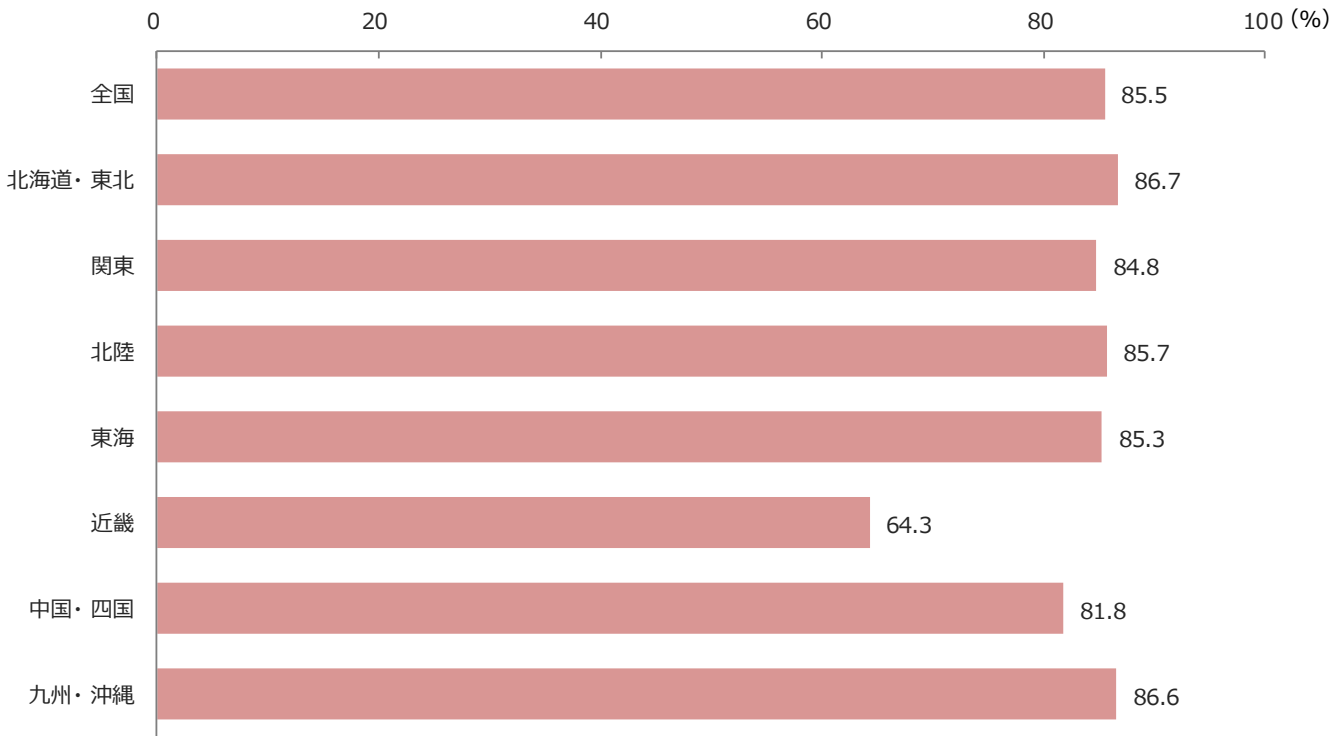
	1腹当たり平均 哺乳開始頭数	1腹当たり平均 離乳頭数	平均育成率	年間平均 種付け頭数	年間平均 分娩頭数	平均分娩率	1腹当たり 平均産子数	母豚回転数
全国	11.5	10.3	90.2	1426.2	1232.2	85.5	12.8	2.3
北海道・東北	11.6	10.5	90.9	1421.7	1232.2	86.7	13.0	2.3
関東	11.4	10.3	90.4	1721.9	1461.6	84.8	12.6	2.2
北陸	12.0	10.6	88.3	1104.0	969.1	85.7	13.3	2.3
東海	12.2	10.8	88.5	892.0	781.1	85.3	13.2	2.3
近畿	10.4	9.5	92.1	653.8	555.5	64.3	11.7	2.2
中国・四国	11.5	10.5	91.7	1074.1	927.6	81.8	13.0	2.3
九州・沖縄	11.1	10.0	89.9	1514.7	1323.2	86.6	12.3	2.3

* 農場所在地ではなく本社所在地で集計

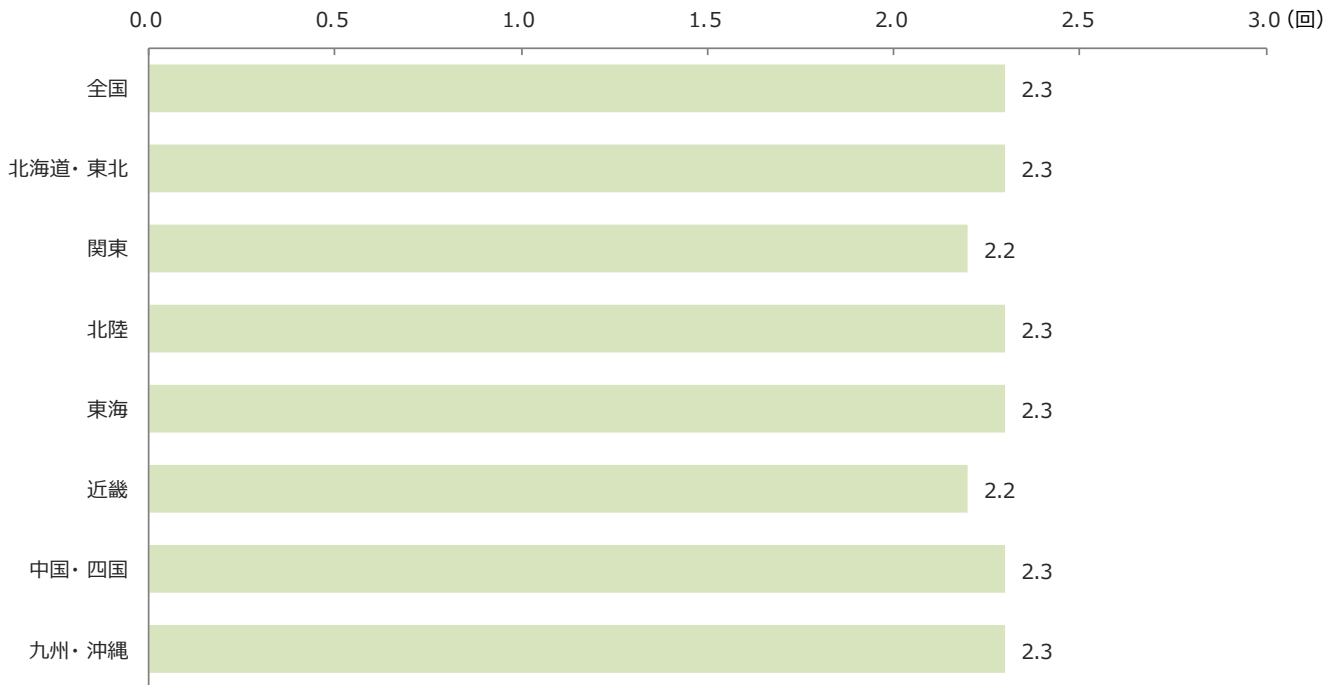
【図12】 1腹当たりの平均哺乳頭数（N=490）および平均離乳頭数（N=489）



[図13] 平均分娩率：地域別 (N=491)



[図14] 年間平均母豚回転数：地域別 (N=500)



□肉豚の評価・上物率・相対取引について

- ① 「肉豚の評価を実施している」経営体は92.4%で、そのうち「日格協（日本食肉格付協会）の格付」は79.7%、「独自の評価基準」は22.3%である。
- ② 上物率は「九州・沖縄」が最も高く66.9%である。
- ③ 「相対取引を実施している」との回答は42.4%である。
- ④ 契約枝重下限の平均は67.6kg、契約枝重上限では84.1kgである。

【表24】 肉豚の評価方法：複数回答可・地域別（N=552）

	N=	日格協の格付け	独自の評価基準 (バッカー・ブランド化・ 協議会などの自主的な評価)	評価をしていない (生体販売など)	評価の方法を 把握していない
全国	552	79.7	22.3	5.6	4.0
北海道・東北	136	88.2	12.5	6.6	1.5
関東	145	71.7	37.2	6.9	4.1
北陸	30	86.7	10.0	0.0	6.7
東海	62	80.6	29.0	3.2	6.5
近畿	12	91.7	8.3	8.3	0.0
中国・四国	36	88.9	5.6	2.8	5.6
九州・沖縄	131	74.0	21.4	6.1	4.6

(経営体数)

(%)

【表25】 平均上物率：地域別（N=452）

	N=	年間平均上物率 (格付している豚)
全国	452	56.4
北海道・東北	118	53.5
関東	113	57.0
北陸	26	51.1
東海	51	51.5
近畿	10	40.4
中国・四国	32	49.2
九州・沖縄	102	66.9

(経営体数)

(%)

【表26】 平均枝肉歩留まり率：地域別（N=393）

	N=	年間平均枝肉歩留まり率
全国	393	66.1
北海道・東北	99	64.3
関東	101	65.8
北陸	17	65.8
東海	44	77.7
近畿	9	59.6
中国・四国	29	64.0
九州・沖縄	94	64.3

(経営体数)

22

(%)

【表27】 相対取引実施状況：全国 (N=523)

N=523	実施している		実施していない	
	契約枝重下限	契約枝重上限		
回答経営体数	222		301	(経営体数)
割合	42.4		57.6	(%)
平均枝重	67.6	84.1		(kg)
最高重量	120.0	130.0		(kg)
最低重量	40.0	72.0		(kg)

□ ベンチマーク参加について

- ⑤ ベンチマークについては、全国では「参加している」28.4%、「参加していない」71.6%。
 ⑥ 地域別では、「北海道・東北」「北陸」で「参加している」が高く、「関東」「近畿」「中国・四国」で「参加していない」が高い。
 ⑦ 子取り用雌豚飼養規模別では、規模が大きくなるにつれ「参加している」が高くなっている。

【表28】 ベンチマーク参加の有無：地域別 (N=566)

	N=	参加している	参加していない
全国	566	28.4	71.6
北海道・東北	135	34.8	65.2
関東	148	22.3	77.7
北陸	31	38.7	61.3
東海	65	29.2	70.8
近畿	12	16.7	83.3
中国・四国	35	17.1	82.9
九州・沖縄	140	30.0	70.0

(経営体数) (%)

【表29】 ベンチマーク参加の有無：子取り用雌豚飼養規模別 (N=496)

	N=	参加している	参加していない
全体	496	31.3	68.8
1～19頭	41	0.0	100.0
20～49頭	38	5.3	94.7
50～99頭	69	17.4	82.6
100～199頭	90	32.2	67.8
200～499頭	131	32.8	67.2
500～999頭	58	53.4	46.6
1,000頭～	69	55.1	44.9

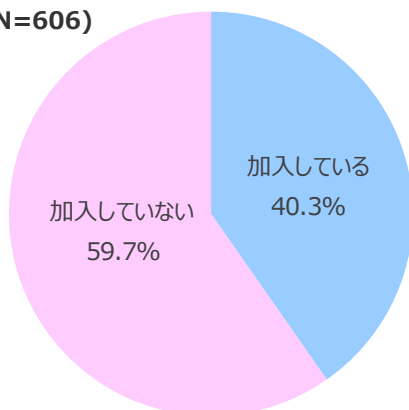
(経営体数) 23 (%)

■ 8.家畜共済の加入状況について

□ 家畜共済の加入状況と希望する家畜共済について

- ① 家畜共済に加入していない理由としては「掛金に対して支払額が見合わない」41.6%、次いで「共済掛金が高い」41.0%。「その他」では「公的機関・学校法人」7件、「面倒・手間がかかる」6件、「必要ない」5件など。そのほか「掛金を捻出できない」「補償額が少ない」といった声があった。
- ② 希望する家畜共済の内容のその他の意見として「簡素な報告形態」「支払い方法を具体的に示す」「出荷頭数で入るようにする」「母豚のオールリスクの加入価格の引下」「離乳子豚から対象にする」といった意見があった。

[図15] 家畜共済加入の有無：全国 (N=606)



[表30] 家畜共済の加入割合：複数回答可・地域別 (N=606)

	N=	家畜共済に加入している計	家畜共済に加入していない計	N=	加入していない理由			
					共済掛金が高い	加入方法がわかりにくい	掛金に対して支払額が見合わない	その他
全国	606	40.3	59.7	327	41.0	15.0	41.6	24.5
北海道・東北	145	36.6	63.4	86	43.0	11.6	45.3	23.3
関東	158	47.5	52.5	70	38.6	12.9	41.4	25.7
北陸	32	65.6	34.4	10	40.0	0.0	50.0	30.0
東海	69	39.1	60.9	37	40.5	27.0	51.4	21.6
近畿	11	18.2	81.8	8	12.5	12.5	37.5	37.5
中国・四国	37	37.8	62.2	22	63.6	9.1	40.9	13.6
九州・沖縄	154	33.8	66.2	94	38.3	18.1	34.0	26.6

(経営体数) (%) (経営体数) (%) (経営体数) (%)

[表31] 希望する家畜共済の内容：複数回答可・地域別 (N=391)

	N=	加入方法、支払額のわかりやすさ	共済掛金を低くする	哺乳子豚を共済対象に含める	補償期間の延長	その他
全国	391	48.8	68.5	18.9	9.0	10.2
北海道・東北	94	42.6	73.4	14.9	7.4	7.4
関東	110	50.9	67.3	21.8	9.1	11.8
北陸	23	52.2	65.2	21.7	8.7	4.3
東海	42	66.7	54.8	19.0	4.8	9.5
近畿	6	66.7	50.0	0.0	16.7	0.0
中国・四国	28	32.1	85.7	35.7	14.3	10.7
九州・沖縄	88	47.7	68.2	14.8	10.2	13.6

(経営体数) 24 (%) (経営体数) (%)

■ 9.交配について

□ 交配の回数

- ① 自然交配での回数は「2回」が74.5%、次いで「3回」が11.7%。人工授精では「2回」56.2%、次いで「3回」38.4%。自然交配と人工授精の併用では「自然交配1回+人工受精2回」が43.4%と高い。
- ② 地域別では自然交配「2回」は「北海道・東北」「北陸」で高く、人工授精「2回」が「中国・四国」で高い。

□ 交配方法

- ① 自然交配のみが24.5%、人工授精のみが51.8%、自然交配と人工授精の併用が31.5%となっている。
- ② 地域別では人工授精のみ実施が「北海道・東北」で62.1%と目立って高い。
- ③ 人工授精における深部注入の実施は「全て深部注入」34.5%、「深部注入と普通の人工授精を併用」25.5%、合わせて60.0%と6割の農場で実施している。
- ④ 地域別では、全て深部注入を行っているのは「九州・沖縄」が43.6%と高く、次いで「北海道・東北」37.9%。逆に深部注入を行っていないのは「関東」「近畿」(注:回答の農場数が少ない)で42.9%と高い傾向がある。
- ⑤ 子取り用雌豚飼養規模別では、全て深部注入を行っているのは「1~19頭」が40.9%と高く、逆に深部注入を行っていないのは「20~49頭」52.2%が高い。
- ⑥ その他の意見では、「種雄が足りない時だけ人工授精にしている」「発情が一度に来た時、年に数回人工授精にしている」、「純粋種豚のみ人工授精、自然交配併用」、「初産、再発は自然交配もしている」、「夏場だけ人工授精、他は自然交配」などもあった。

[表32] 交配実施回数と方法：地域別 (N=575)

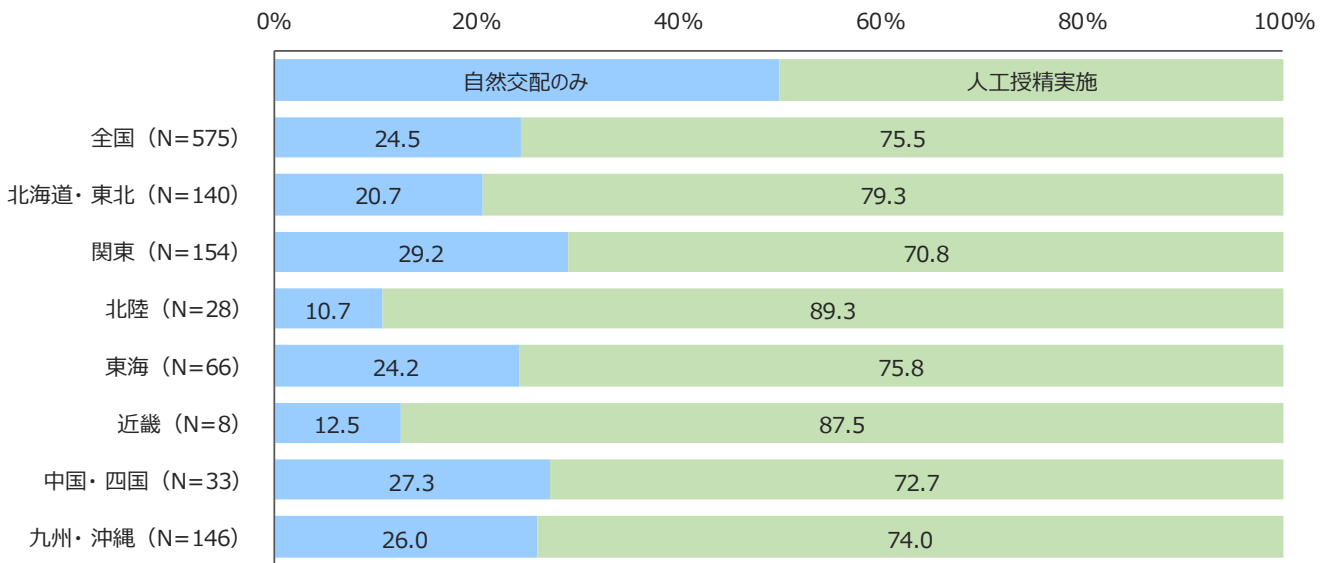
	N=	自然交配のみ				N=	人工授精のみ				N=	自然交配+人工授精の併用			
		1回	2回	3回	その他		1回	2回	3回	その他		自然交配1回+人工授精1回	自然交配1回+人工授精2回	自然交配2回+人工授精1回	その他
全国	137	10.2	74.5	11.7	3.6	292	0.3	56.2	38.4	5.1	173	38.7	43.4	7.5	10.4
北海道・東北	28	7.1	85.7	3.6	3.6	85	0.0	58.8	37.6	3.5	37	32.4	43.2	8.1	16.2
関東	44	15.9	75.0	9.1	0.0	72	1.4	56.9	34.7	6.9	49	55.1	34.7	4.1	6.1
北陸	3	0.0	100.0	0.0	0.0	11	0.0	54.5	45.5	0.0	15	40.0	20.0	13.3	26.7
東海	16	12.5	75.0	6.3	6.3	31	0.0	61.3	25.8	12.9	19	26.3	63.2	5.3	5.3
近畿	1	0.0	0.0	100.0	0.0	4	0.0	50.0	50.0	0.0	3	66.7	33.3	0.0	0.0
中国・四国	9	11.1	55.6	22.2	11.1	15	0.0	66.7	33.3	0.0	13	46.2	46.2	7.7	0.0
九州・沖縄	36	5.6	69.4	19.4	5.6	74	0.0	48.6	47.3	4.1	37	24.3	54.1	10.8	10.8

(経営体数) (経営体数) (経営体数) (経営体数) (経営体数) (経営体数) (経営体数) (経営体数)

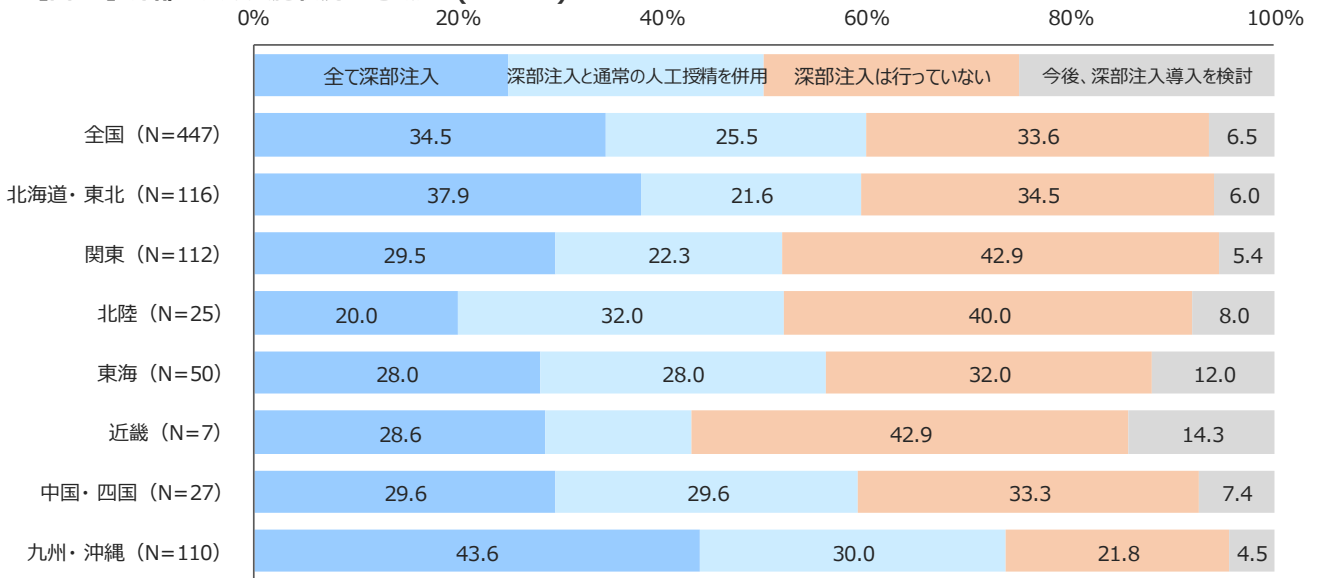
	N=	自然交配のみ	人工授精のみ	自然交配+人工授精の併用
全国	575	24.5	51.8	31.5
北海道・東北	140	20.7	62.1	28.6
関東	154	29.2	46.8	32.5
北陸	28	10.7	39.3	53.6
東海	66	24.2	48.5	31.8
近畿	8	12.5	50.0	37.5
中国・四国	33	27.3	48.5	39.4
九州・沖縄	146	26.0	52.1	26.7

(経営体数) (経営体数)

【図16】人工授精の実施状況：地域別（N=575）



【図17】深部注入の実施状況：地域別（N=447）



【表33】人工授精における深部注入の実施内容：子取り用雌豚飼養規模別（N=424）

	N=	全て深部注入で 行っている	深部注入と 普通の人工授精を 併用している	深部注入 は行っていない	深部注入は 行っていないが、 今後検討したい
全体	424	33.7	25.2	34.7	6.4
1～19頭	22	40.9	18.2	40.9	0.0
20～49頭	23	26.1	13.0	52.2	8.7
50～99頭	46	28.3	23.9	43.5	4.3
100～199頭	75	33.3	24.0	37.3	5.3
200～499頭	126	31.7	25.4	37.3	5.6
500～999頭	63	36.5	28.6	23.8	11.1
1,000頭～	69	39.1	30.4	23.2	7.2

(経営体数)

(%)

□ 精液

- ① 精液の入手方法は、全体で、「すべて外部導入」が49.0%と最も高く、次いで「すべて自家採精」が27.9%となっている。
- ② 子取り用雌豚飼養規模別で見ると「すべて自家採精」が「1,000頭～」で42.0%と最も高く、「すべて外部導入」は「1～19頭」で77.3%と最も高いが、1～199頭の飼養規模の農場では60%以上と高い傾向にある。また「自家採精と外部導入を併用」は「1,000頭～」で39.1%と最も高い。

【表34】 精液の導入方法：子取り用雌豚飼養規模別（N=420）

	N=	すべて自家採精	すべて外部導入 (公的試験場・AIセンター)	自家採精と 外部導入を併用
全体	420	27.9	49.0	23.1
1～19頭	22	4.5	77.3	18.2
20～49頭	23	26.1	60.9	13.0
50～99頭	45	13.3	75.6	11.1
100～199頭	75	22.7	65.3	12.0
200～499頭	125	29.6	46.4	24.0
500～999頭	61	34.4	34.4	31.1
1,000頭～	69	42.0	18.8	39.1

(経営体数) (%)

■ 10.飼料について

□飼料内容

- ① 飼料の給与形態をみると、「市販配合飼料のみ」が82.5%と最も多く、次いで「市販配合飼料+自家配合飼料」が13.7%、「自家配合飼料のみ」が3.8%となっている。
- ② 地域別の割合をみると、「近畿」を除く地域で「市販配合飼料のみ」の割合が75%以上と高い。「北海道・東北」は91.6%と目立って高い。
- ③ 飼料の給与内容をみると、「配合飼料」が圧倒的に多く「全国」で91.3%となっている。

【表35】 飼料の給与形態：地域別 (N=606)

	N=	市販配合飼料のみ*	市販配合飼料+ 自家配合飼料	自家配合飼料のみ**
全国	606	82.5	13.7	3.8
北海道・東北	143	91.6	8.4	0.0
関東	162	79.6	16.7	3.7
北陸	27	85.2	11.1	3.7
東海	70	75.7	21.4	2.9
近畿	11	27.3	54.5	18.2
中国・四国	38	86.8	5.3	7.9
九州・沖縄	155	82.6	11.6	5.8

(経営体数) (%)

*配合割合等を指定してメーカーに配合させたものを含む

**丸粒トウモロコシ単味飼料やエコフィード等の飼料原料を調達して自ら配合・調整したもの

【表36】 飼料の給与内容：地域別 (N=595)

	N=	A：配合飼料			B：単味飼料				
		配合飼料	エコフィード利 用配合飼料	飼料用米利用 配合飼料	飼料用米	子実用 トウモロコシ	エコフィード (食品製造副 産物等)	エコフィード (厨芥残さ 等)	その他
全国	595	91.3	8.7	10.6	7.7	0.5	9.6	1.8	6.4
北海道・東北	148	97.3	6.8	12.2	7.4	0.7	4.7	0.7	6.8
関東	158	90.5	8.9	13.3	7.0	1.3	9.5	1.9	5.7
北陸	30	86.7	10.0	10.0	20.0	0.0	6.7	0.0	3.3
東海	68	83.8	11.8	13.2	5.9	0.0	14.7	1.5	2.9
近畿	12	66.7	25.0	16.7	16.7	0.0	58.3	41.7	16.7
中国・四国	37	89.2	5.4	5.4	13.5	0.0	10.8	0.0	5.4
九州・沖縄	142	93.0	8.5	5.6	4.9	0.0	8.5	0.7	8.5

(経営体数) (%)

- ④ その他の単味飼料では、「大豆(粕)」11件、「トウモロコシ」9件、「ふすま」「酒粕」5件、「大麦・圧ペン大麦」「小麦・小麦粉」4件などが挙げられた。

[表37] 飼料の年間使用量：地域別 (N=595)

	N=	A+B合計	A：配合飼料								
			配合飼料			エコフィード利用配合飼料			飼料用米利用配合飼料		
			N=	合計数量	数量割合	N=	合計数量	数量割合	N=	合計数量	数量割合
全国	595	26772.0千	476	26330.8千	98.4	42	160.4千	0.6	45	136.9千	0.5
北海道・東北	148	4646.7千	128	4573.7千	98.4	9	11.1千	0.2	14	46.8千	1.0
関東	158	19789.6千	124	19597.3千	99.0	10	63.7千	0.3	15	59.7千	0.3
北陸	30	116.5千	24	102.7千	88.2	2	11.8千	10.1	2	1.3千	1.1
東海	68	166.3千	54	107.7千	64.8	6	39.9千	24.0	7	12.5千	7.5
近畿	12	19.7千	6	5.5千	27.7	3	5.7千	29.1	2	0.0千	0.1
中国・四国	37	905.1千	29	892.4千	98.6	2	5.2千	0.6	1	5.0千	0.6
九州・沖縄	142	1128.2千	111	1051.5千	93.2	10	22.9千	2.0	4	11.6千	1.0
	(経営体数)	(t)	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)	

	B：単味飼料														
	飼料用米			子実用トウモロコシ			エコフィード（食品製造副産物等）			エコフィード（厨芥残さ等）			その他		
	N=	合計数量	数量割合	N=	合計数量	数量割合	N=	合計数量	数量割合	N=	合計数量	数量割合	N=	合計数量	数量割合
全国	23	33.7千	0.1	1	0.0千	0.0	48	67.7千	0.3	10	18.9千	0.1	31	23.7千	0.1
北海道・東北	7	5.9千	0.1	-	-	-	6	6.7千	0.1	1	0.2千	0.0	8	2.3千	0.0
関東	7	26.6千	0.1	1	0.0千	0.0	14	25.0千	0.1	3	16.1千	0.1	9	1.2千	0.0
北陸	2	0.5千	0.4	-	-	-	2	0.2千	0.2	-	-	-	-	-	-
東海	1	0.0千	0.0	-	-	-	6	3.5千	2.1	1	2.2千	1.3	2	0.5千	0.3
近畿	1	0.0千	0.0	-	-	-	6	7.9千	40.1	4	0.4千	1.9	2	0.2千	1.1
中国・四国	1	0.0千	0.0	-	-	-	3	2.1千	0.2	-	0.0千	0.0	2	0.3千	0.0
九州・沖縄	4	0.7千	0.1	-	-	-	11	22.4千	2.0	1	0.0千	0.0	8	19.1千	1.7
	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)	

[表38] 飼料の年間使用量（平均数量）：地域別 (N=595)

	N=	配合飼料（平均数量）					
		配合飼料		エコフィード利用配合飼料		飼料用米利用配合飼料	
		N=	平均値	N=	平均値	N=	平均値
全国	595	476	55,085.4	42	3,818.9	45	2,975.6
北海道・東北	148	128	35,732.4	9	1,237.7	14	3,340.4
関東	158	124	158,042.5	10	6,372.4	15	3,979.9
北陸	30	24	4,278.8	2	5,900.5	2	640.0
東海	68	54	1,994.3	6	6,646.9	7	1,783.4
近畿	12	6	911.1	3	1,914.0	2	10.9
中国・四国	37	29	30,772.9	2	2,620.0	1	5,000.0
九州・沖縄	142	111	9,473.2	10	2,286.7	4	2,907.3
	(経営体数)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)

	単味飼料（平均数量）									
	飼料用米		子実用トウモロコシ		エコフィード（食品製造副産物等）		エコフィード（厨芥残さ等）		その他	
	N=	平均値	N=	平均値	N=	平均値	N=	平均値	N=	平均値
全国	23	1,463.5	1	3.0	48	1,382.5	10	1,885.3	31	764.7
北海道・東北	7	840.6	0	-	6	1,115.0	1	180.0	8	290.3
関東	7	3,794.3	1	3.0	14	1,785.0	3	5,366.7	9	134.5
北陸	2	238.8	-	-	2	101.1	0	-	-	-
東海	1	48.0	-	-	6	583.9	1	2,160.0	2	247.6
近畿	1	1.0	-	-	6	1,319.0	4	95.8	2	106.0
中国・四国	1	32.0	-	-	3	683.6	-	-	2	173.6
九州・沖縄	4	164.3	-	-	11	2,035.6	1	30.0	8	2,389.8
	(経営体数)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)

□ 飼料用米

- ① 飼料用米の今後の利用意向では、設問への回答者ほぼ全員が「利用を拡大・継続」と回答。
- ② 飼料用米の平均希望数量は835.3t。
- ③ 飼料用米の平均買取価格は26.1円/kg。「近畿」「東海」(注：共に回答の農場数が少ない)で30.0円/kg、29.0円/kg、と高い。
- ④ 飼料用米を「自社加工している」のは51.2%、「自社加工していない」のは48.8%。「近畿」(注：回答の農場数が少ない)「関東」では「自社加工している」が高い傾向にある。

【表39】 飼料用米利用の意向：地域別 (N=43)

	N=	利用継続・拡大		削減または中止
		飼料用米の利用を継続・拡大	平均希望数量	
全国	43	42 (97.7)	835.3	1 (2.3)
北海道・東北	11	11 (100.0)	1045.6	0 (0.0)
関東	11	11 (100.0)	1142.4	0 (0.0)
北陸	5	4 (80.0)	685.0	1 (20.0)
東海	4	4 (100.0)	442.2	0 (0.0)
近畿	2	2 (100.0)	150.0	0 (0.0)
中国・四国	3	3 (100.0)	40.0	0 (0.0)
九州・沖縄	7	7 (100.0)	526.7	0 (0.0)

(経営体数 (%)) (t) (経営体数 (%))

【表40】 飼料用米の平均買取価格：地域別 (N=31)

	N=	飼料用米の平均買取価格
全国	31	26.1
北海道・東北	9	26.0
関東	6	24.2
北陸	4	25.6
東海	3	29.0
近畿	1	30.0
中国・四国	0	-
九州・沖縄	8	27.3

(経営体数) (円/kg)

【表41】 飼料用米の加工について：地域別 (N=43)

	N=	自社加工している	自社加工していない
全国	43	51.2	48.8
北海道・東北	9	44.4	55.6
関東	11	72.7	27.3
北陸	6	50.0	50.0
東海	4	25.0	75.0
近畿	2	100.0	0.0
中国・四国	4	0.0	100.0
九州・沖縄	7	57.1	42.9

(経営体数) (%)

- ⑤ 飼料用米を加工委託した場合の加工費は「買取価格に含む」95.0%、「買取価格に含まない」5.0%。
 ⑥ 飼料用米を加工委託した場合の平均加工費は「買取価格に含む」場合が15.6円/kg、「買取価格に含まない」場合は金額回答なし。
 ⑦ 飼料用米の仕入れ先は「生産者から直接仕入れ」58.1%、「それ以外」41.9%。
 ⑧ 飼料用米を生産者から直接仕入れている場合の仕入れ先は「県内」が83.3%で最も高い。
 ⑨ 飼料用米の輸送費負担は「輸送費を負担」が51.2%、「輸送費を負担していない」48.8%。「輸送費を負担」している場合の平均輸送費が3.8円/kgとなっている。

[表42] 飼料用米を加工委託した場合の加工費について：全国 (N=20)

	N=	買取価格に含む	買取価格に 含まない
全国	20	95.0	5.0
	(経営体数)		(%)

[表43] 飼料用米を加工委託した場合の平均加工費：全国 (N=4)

	N=	買取価格に含む	買取価格に 含まない
全国	4	15.6	-
	(経営体数)		(円/kg)

[表44] 飼料用米の仕入れ先について：全国 (N=43)

	N=	生産者から 直接仕入れ	それ以外
全国	43	58.1	41.9
	(経営体数)		(%)

[表45] 飼料用米を生産者から直接仕入れている場合の仕入れ先：全国 (N=24)

	N=	県内	県外	県内・県内両方
全国	24	83.3	4.2	12.5
	(経営体数)			(%)

[表46] 飼料用米の輸送費負担の有無：全国 (N=41)

	N=	輸送費を負担	輸送費を 負担していない
全国	41	51.2	48.8
			(%)

[表47] 飼料用米の平均輸送費：全国 (N=7)

	N=	輸送費を負担
全国	7	3.8
		(円/kg)

□エコフィード

- ① エコフィードを利用している経営体は全体の32.7%。「エコフィードの利用の予定はない」は全体の60.4%、地域別では「北海道・東北」71.6%と「中国・四国」66.7%で「利用の予定はない」が高い。
- ② エコフィードの利用形態としては、「エコフィードを含む配合飼料として給与」16.5%、次いで「食品残さを加熱し、リキッドにして給与している」「食品残さを加熱し、ドライにして給与している」が共に7.7%で高い。地域別では「近畿」で全ての形態において高い。
- ③ エコフィードの入手先は「エコフィード製造事業者等から購入」51.0%、「自家配合」49.0%。
- ④ エコフィードの平均製造コストは「リキッド」14.8円/kg、「乾燥」19.5円/kg。
- ⑤ エコフィードの平均購入コストは「リキッド」6.5円/kg、「乾燥」44.0円/kg。

【表48】エコフィードの利用形態：地域別（N=376）

	N=	食品残さを加熱し、リキッドにして給与している	食品残さを加熱し、ドライにして給与している	加熱の必要のない食品残さを集め、リキッドにして給与している	エコフィードを含む配合飼料として給与している	食品残さを加熱し給与している	その他飼料化方法	利用していないが、利用を検討中・利用してみたい	利用しているが、今後利用しないことを検討している	利用の予定はない
全国	376	7.7	7.7	6.6	16.5	1.1	2.7	6.9	0.0	60.4
北海道・東北	88	3.4	4.5	4.5	11.4	0.0	1.1	6.8	0.0	71.6
関東	100	12.0	8.0	7.0	17.0	1.0	2.0	9.0	0.0	55.0
北陸	19	0.0	10.5	0.0	21.1	0.0	0.0	5.3	0.0	63.2
東海	47	10.6	8.5	6.4	14.9	2.1	6.4	8.5	0.0	53.2
近畿	12	33.3	25.0	25.0	50.0	16.7	0.0	8.3	0.0	16.7
中国・四国	27	3.7	14.8	3.7	11.1	0.0	3.7	7.4	0.0	66.7
九州・沖縄	83	4.8	4.8	8.4	18.1	0.0	3.6	3.6	0.0	62.7

(経営体数) (%)

【表49】エコフィードの入手先：全国（N=104）

	N=	自家配合（原料を購入・回収し、自ら加工処理を行う）	エコフィード製造事業者等から購入
全国	104	49.0	51.0

(%)

【表50】エコフィードの平均製造コスト：全国（リキッド：N=15、乾燥：N=19）

	N=	リキッド	N=	乾燥
全国	15	14.8	19	19.5

(経営体数) (経営体数) (円/kg)

【表51】エコフィードの平均購入コスト：全国（リキッド：N=12、乾燥：N=23）

	N=	リキッド	N=	乾燥
全国	12	6.5	23	44.0

(経営体数) (経営体数) (円/kg)

- ⑥ エコフィードを利用するに当たっての課題は「エコフィード又はエコフィード原料の安定確保が難しい」が43.3%で最も高く、次いで「製造施設や機器の導入に課題がある」が31.8%となっている。

【表52】エコフィードを利用するに当たっての課題：子取り用雌豚飼養規模別（N=201）

	N=	エコフィード又はエコフィード原料の安定確保が難しい	エコフィードの原料の排出事業者が近隣にない	エコフィードの飼料設計等調整技術に課題がある	製造施設や機器の導入に課題がある	その他	特に課題はない
全体	201	43.3	21.9	28.9	31.8	11.9	27.9
1～19頭	25	36.0	24.0	12.0	36.0	8.0	28.0
20～49頭	9	44.4	11.1	33.3	22.2	0.0	44.4
50～99頭	24	45.8	37.5	29.2	29.2	0.0	33.3
100～199頭	43	41.9	20.9	44.2	39.5	9.3	27.9
200～499頭	52	44.2	21.2	26.9	36.5	19.2	23.1
500～999頭	23	43.5	21.7	21.7	21.7	13.0	26.1
1,000頭～	25	48.0	12.0	28.0	20.0	20.0	28.0

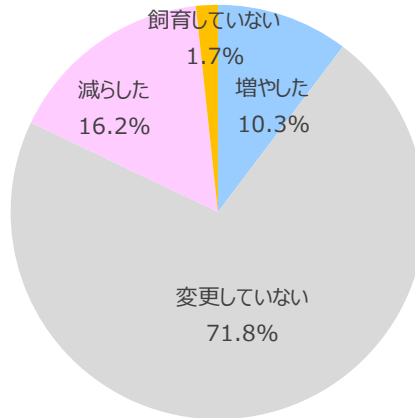
(経営体数) (%)

■ 11.経営の推移と今後の動向

□ 繁殖豚飼養頭数

- ① 繁殖豚飼養頭数は「増やした」が10.3%で、前年度の12.0%から1.7ポイント減少。「減らした」は16.2%と、前年度の12.7%より3.5ポイント増加、「変更していない」は71.8%で前年度の73.1%から1.3ポイント減少。
- ② 頭数では、「増やした」が8,106頭、「減らした」が3,163頭で、全体で4,943頭増加している。
- ③ 地域別では、「近畿」（注：回答の農場数が少ないので参考値）で「減らした」が高い。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では「1,000頭～」で「増やした」が15.9%と高い。

【図18】 飼養頭数動向【母豚（子取り用雌豚）】：全国（N=585）



【表53】 飼養頭数（子取り用雌豚）の推移：地域別（N=585）

	N=	増やした（頭数）	変わらない（頭数）	減らした（頭数）	飼育していない（頭数）
全国	585	10.3 (8,106)	71.8	16.2 (3,163)	1.7
北海道・東北	142	12.0 (3,128)	74.6	11.3 (417)	2.1
関東	156	10.9 (2,777)	72.4	16.0 (1,269)	0.6
北陸	29	3.4 (155)	82.8	10.3 (10)	3.4
東海	69	10.1 (890)	66.7	17.4 (100)	5.8
近畿	9	11.1 (100)	55.6	22.2 (4)	11.1
中国・四国	34	8.8 (267)	70.6	20.6 (202)	0.0
九州・沖縄	146	9.6 (789)	69.9	20.5 (1,161)	0.0
	(経営体数)	(% (頭数))	(%)	(% (頭数))	(%)

【表54】 飼養頭数の推移：子取り用雌豚飼養規模別（N=538）

	N=	増やした（頭数）	変わらない（頭数）	減らした（頭数）	飼育していない（頭数）
全体	538	10.8 (7,506)	73.2	16.0 (3,053)	0.0
1～19頭	46	4.3 (52)	76.1	19.6 (47)	0.0
20～49頭	48	6.3 (30)	64.6	29.2 (109)	0.0
50～99頭	77	3.9 (55)	71.4	24.7 (244)	0.0
100～199頭	99	14.1 (524)	71.7	14.1 (550)	0.0
200～499頭	136	11.8 (1,124)	75.7	12.5 (556)	0.0
500～999頭	63	14.3 (1,730)	74.6	11.1 (500)	0.0
1,000頭～	69	15.9 (3,991)	75.4	8.7 (1,047)	0.0
	(経営体数)	(% (頭数))	(%)	(% (頭数))	(%)

□ 繁殖豚飼養頭数増減の理由

- ① 増頭の理由では「収益をアップするため」が61.7%で最も高く、次いで「後継者が経営に参加したため」が30.0%となっている。
- ② 減頭の理由は「コスト高騰で規模を縮小した」35.8%、「高齢化で労働が厳しい」26.3%、「母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した」20.0%の順となっている。
- ③ 増頭の理由の「その他」では、「規模拡大によるコスト低減」「計画増頭」「豚舎を建築した」「グループシステムに移行するため」「火災後の農場再開」など。
- ④ 減頭の理由の「その他」では、「母豚の老齢」「母豚更新の為」豚熱殺処分」「豚熱ワクチン接種地域拡大により販売量減」「施設の老朽化」「豚舎建て替え」「委託農場の廃業」など。

【表55】 増頭の理由：複数回答可・地域別（N=60）

	N=	収益をアップ するため	後継者が経 営に参加した ため	出荷先から増 頭の依頼があ ったため	近隣に土地を 購入できたた め	繁殖成績が 低下し、出荷 頭数を維持す るため	養豚農家減 少を見越した 投資	事情があって 減頭していた のを戻した	その他
全国	60	61.7	30.0	21.7	18.3	16.7	15.0	11.7	11.7
北海道・東北	17	58.8	35.3	35.3	11.8	5.9	17.6	0.0	23.5
関東	17	58.8	35.3	17.6	23.5	23.5	5.9	17.6	5.9
北陸	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
東海	7	71.4	28.6	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0
近畿	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中国・四国	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
九州・沖縄	14	64.3	21.4	7.1	14.3	28.6	21.4	14.3	7.1

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

【表56】 減頭の理由：複数回答可・地域別（N=95）

	N=	(飼料など) コスト高騰で 規模を縮小 した	高齢化で労 働が厳しい	母豚1頭当 たりの繁殖 成績が向上 した	廃業予定	従業員等労 働力が確保 できない	疾病対策な どで一時的 に減頭してい る	環境対策の ため	委託・預託 農場になる ため	その他
全国	95	35.8	26.3	20.0	15.8	13.7	10.5	9.5	2.1	20.0
北海道・東北	16	31.3	25.0	31.3	12.5	0.0	6.3	6.3	0.0	31.3
関東	25	28.0	36.0	12.0	12.0	12.0	12.0	20.0	0.0	20.0
北陸	3	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
東海	12	16.7	41.7	25.0	8.3	8.3	16.7	16.7	0.0	25.0
近畿	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
中国・四国	7	42.9	28.6	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0	28.6
九州・沖縄	30	53.3	16.7	16.7	23.3	20.0	10.0	0.0	6.7	6.7

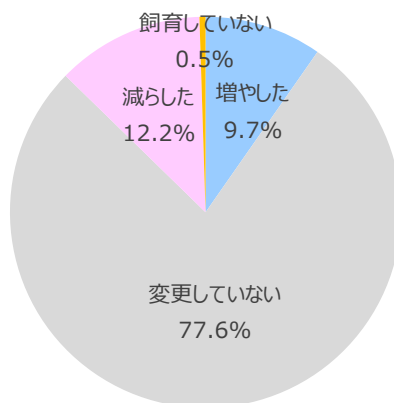
(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

□肥育豚飼養頭数

- ① 肥育豚飼養頭数は、「増やした」が9.7%、「変更していない」が77.6%、「減らした」が12.2%である。
- ② 頭数で見ると、「増やした」が70,685頭、「減らした」が16,741頭で53,944頭増加している。増頭数では前年度の101,164頭から70,685頭と3割減。
- ③ 地域別では、「近畿」で「増やした」が16.7%と高く、一方「減らした」も「近畿」は25.0%と高い。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では「20～99頭」「50～99頭」で減らしたが目立つ。

【図19】 飼養頭数動向【肥育経営（肥育豚）】：全国（N=580）



【表57】 肥育豚飼養頭数の推移：地域別（N=580）

	N=	増やした（頭数）	変わらない（頭数）	減らした（頭数）	飼育していない（頭数）
全国	580	9.7 (70,685)	77.6	12.2 (16,741)	0.5
北海道・東北	139	12.2 (36,847)	82.7	4.3 (649)	0.7
関東	149	10.7 (12,957)	73.8	14.1 (1,641)	1.3
北陸	32	3.1 (1,951)	90.6	6.3 (432)	0.0
東海	65	10.8 (8,800)	75.4	13.8 (1,229)	0.0
近畿	12	16.7 (1,000)	58.3	25.0 (810)	0.0
中国・四国	36	11.1 (800)	66.7	22.2 (2,820)	0.0
九州・沖縄	147	6.1 (8,330)	78.9	15.0 (9,160)	0.0
	(経営体数)	(% (頭数))	(%)	(% (頭数))	(%)

【表58】 肥育豚飼養頭数の推移：子取り用雌豚飼養規模別（N=494）

	N=	増やした（頭数）	変わらない（頭数）	減らした（頭数）	飼育していない（頭数）
全体	494	9.7 (53,425)	77.7	11.9 (14,833)	0.6
1～19頭	44	6.8 (1,100)	84.1	9.1 (191)	0.0
20～49頭	41	4.9 (100)	70.7	24.4 (460)	0.0
50～99頭	67	6.0 (150)	71.6	20.9 (1,239)	1.5
100～199頭	91	12.1 (1,030)	76.9	11.0 (700)	0.0
200～499頭	127	9.4 (12,697)	80.3	9.4 (3,860)	0.8
500～999頭	58	10.3 (12,500)	79.3	8.6 (7,600)	1.7
1,000頭～	66	15.2 (25,848)	78.8	6.1 (783)	0.0
	(経営体数)	(% (頭数))	(%)	(% (頭数))	(% (頭数))

□肥育豚飼養頭数増減の理由

- ① 増頭の理由で最も高いのは「収益をアップするため」が56.6%、「出荷先から増頭の依頼があったため」が17.0%である。
- ② 増頭理由の「その他」では「繁殖成績が向上した」「哺乳中の事故が減った」「規模拡大によるコスト低減」「母豚増頭」「預託農場を直営化した」などの意見が聞かれた。
- ③ 減頭の理由で最も高いのは「コスト高騰で規模を縮小した」35.2%、次いで「高齢化で労働が厳しい」31.0%、「疾病対策などで一時的に減頭している」19.7%となっている。
- ④ 減頭理由の「その他」では「豚熱」「母豚の減少」「哺乳豚事故増加」「肉豚舎改修」「委託農場の廃業」「販売先が無くなるから」「放牧への取り組み」などの意見が聞かれた。

[表59] 増頭の理由：複数回答可・地域別 (N=53)

	N=	収益をアップ するため	出荷先から増 頭の依頼があ ったため	後継者が経 営に参加した ため	近隣に土地を 購入できたた め	繁殖成績が 低下し、出荷 頭数を維持す るため	事情があつて 減頭していた のを戻した	養豚農家減 少を見越した 投資	その他
全国	53	56.6	17.0	15.1	13.2	9.4	9.4	5.7	24.5
北海道・東北	15	53.3	33.3	13.3	13.3	6.7	0.0	13.3	26.7
関東	16	62.5	12.5	18.8	12.5	18.8	18.8	0.0	12.5
北陸	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
東海	7	42.9	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	42.9
近畿	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
中国・四国	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
九州・沖縄	9	77.8	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

[表60] 減頭の理由：複数回答可・地域別 (N=71)

	N=	(飼料な ど) コスト高 騰で規模を 縮小した	高齢化で労働が 厳しい	疾病対策な どで一時的 に減頭して いる	従業員等労働力が 確保できない	環境対策の ため	廃業予定	委託・預託 農場になる ため	母豚1頭当 たりの繁殖 成績が向上 した	その他
全国	71	35.2	31.0	19.7	14.1	14.1	12.7	4.2	2.8	22.5
北海道・東北	6	33.3	66.7	16.7	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7
関東	21	19.0	28.6	33.3	14.3	19.0	4.8	0.0	4.8	9.5
北陸	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
東海	9	33.3	44.4	22.2	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	44.4
近畿	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
中国・四国	8	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	62.5
九州・沖縄	22	63.6	22.7	9.1	22.7	4.5	18.2	13.6	4.5	9.1

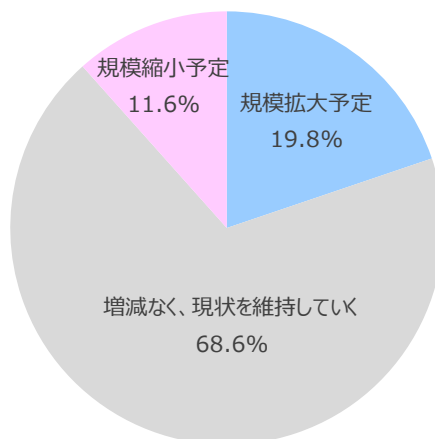
(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

□ 今後の養豚経営の意向

- ① 今後の養豚経営の意向は「規模拡大予定」が21.2%で前年26.6%から5.4ポイント減少。「現状維持」66.7%、「規模縮小予定」が12.2%と「現状維持」の割合が2.4ポイント増加し、「規模縮小予定」は3.6ポイント増加している。
- ② 経営者の年代別で見ると、「規模拡大予定」では「20・30才代」46.2%と若年層で高い傾向。「規模縮小予定」は、「70代～」で20.3%と目立って高い。
- ③ 後継者の有無別については、「規模拡大予定」では「経営者が若い」34.0%、「後継者あり」28.4%が高い。「規模縮小予定」では、「後継者なし」が26.0%と高い。
- ④ 地域別では、「規模拡大予定」が回答農場数が少ないが「近畿」で38.5%と高く、「規模縮小予定」では「中国・四国」で21.1%と目立って高い。

【図20】 今後の養豚経営の意向：全国（N=605）



【表61】 今後の養豚経営の意向：年代別（N=543）

	N=	規模拡大予定	増減なく、現状を維持していく	規模縮小予定
全年代	543	21.2 (115)	66.7 (362)	12.2 (66)
20・30代	39	46.2 (18)	46.2 (18)	7.7 (3)
40代	135	20.7 (28)	71.1 (96)	8.1 (11)
50代	126	19.8 (25)	70.6 (89)	9.5 (12)
60代	164	20.7 (34)	64.6 (106)	14.6 (24)
70代～	79	12.7 (10)	67.1 (53)	20.3 (16)

(経営体数)

(% (経営体数))

【表62】 今後の養豚経営の意向：後継者有無別（N=600）

	N=	規模拡大予定	増減なく、現状を維持していく	規模縮小予定
全体	600	20.0 (120)	68.3 (410)	11.7 (70)
後継者あり	162	28.4 (46)	62.3 (101)	9.3 (15)
候補あり未定	97	22.7 (22)	68.0 (66)	9.3 (9)
経営者が若い	94	34.0 (32)	60.6 (57)	5.3 (5)
後継者なし	131	3.1 (4)	71.0 (93)	26.0 (34)
経営体が異なる	116	13.8 (16)	80.2 (93)	6.0 (7)

(経営体数)

(% (経営体数))

【表63】 今後の養豚経営の意向：地域別 (N=605)

	N=	規模拡大予定	増減なく、現状を維持していく	規模縮小予定
全国	605	19.8 (120)	68.6 (415)	11.6 (70)
北海道・東北	145	19.3 (28)	69.7 (101)	11.0 (16)
関東	157	21.0 (33)	68.8 (108)	10.2 (16)
北陸	29	27.6 (8)	69.0 (20)	3.4 (1)
東海	70	25.7 (18)	67.1 (47)	7.1 (5)
近畿	13	38.5 (5)	61.5 (8)	0.0 (0)
中国・四国	38	7.9 (3)	71.1 (27)	21.1 (8)
九州・沖縄	153	16.3 (25)	68.0 (104)	15.7 (24)

(経営体数)

(% (経営体数))

- ⑤ 「規模拡大予定」の内訳は、「今年中に規模拡大を計画している」6.8%、「4年以内に規模拡大を計画している」53.8%、「具体的な計画はないが規模拡大を検討したい」39.3%となっている。
- ⑥ 地域別では、「九州・沖縄」で「今年中に規模拡大を計画している」が20.0%と高い。

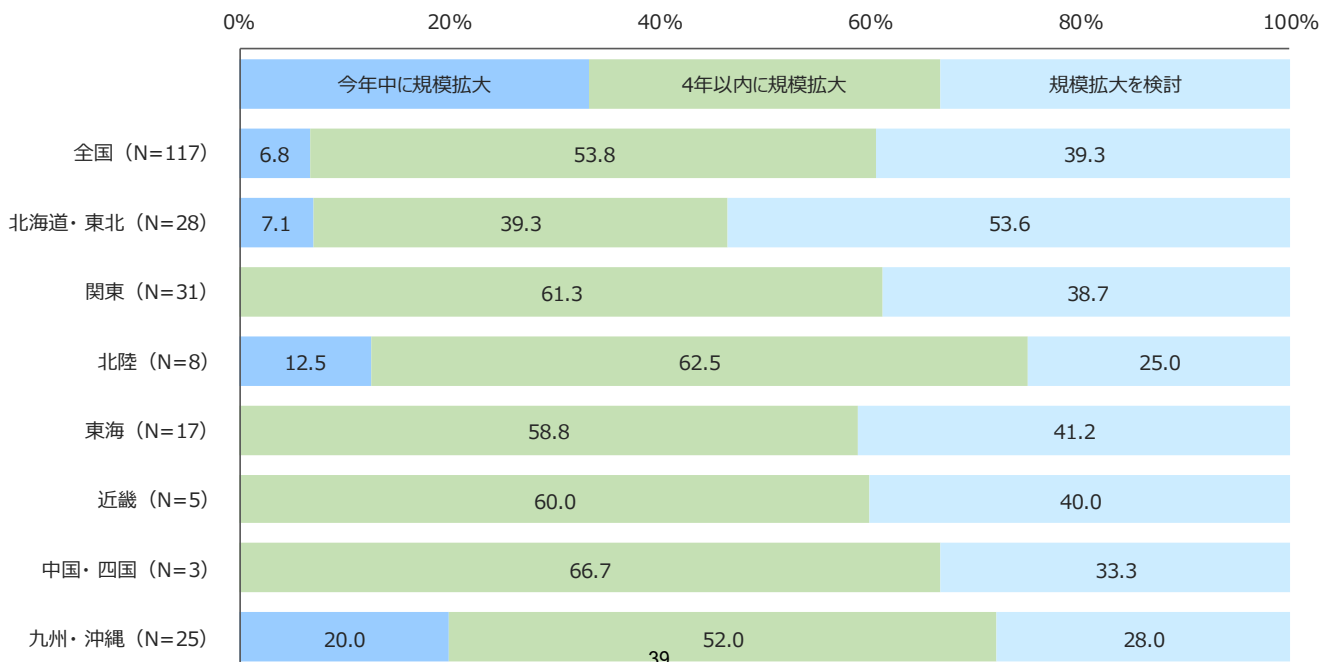
【表64】 規模拡大予定の内訳：地域別 (N=117)

	N=	規模拡大予定		
		今年中に規模拡大を計画している	4年以内に規模拡大を計画している	具体的な計画はないが、規模拡大を検討したい
全国	117	6.8 (8)	53.8 (63)	39.3 (46)
北海道・東北	28	7.1 (2)	39.3 (11)	53.6 (15)
関東	31	0.0 (0)	61.3 (19)	38.7 (12)
北陸	8	12.5 (1)	62.5 (5)	25.0 (2)
東海	17	0.0 (0)	58.8 (10)	41.2 (7)
近畿	5	0.0 (0)	60.0 (3)	40.0 (2)
中国・四国	3	0.0 (0)	66.7 (2)	33.3 (1)
九州・沖縄	25	20.0 (5)	52.0 (13)	28.0 (7)

(経営体数)

(% (経営体数))

【図 21】 規模拡大予定の内訳：地域別 (N=117)



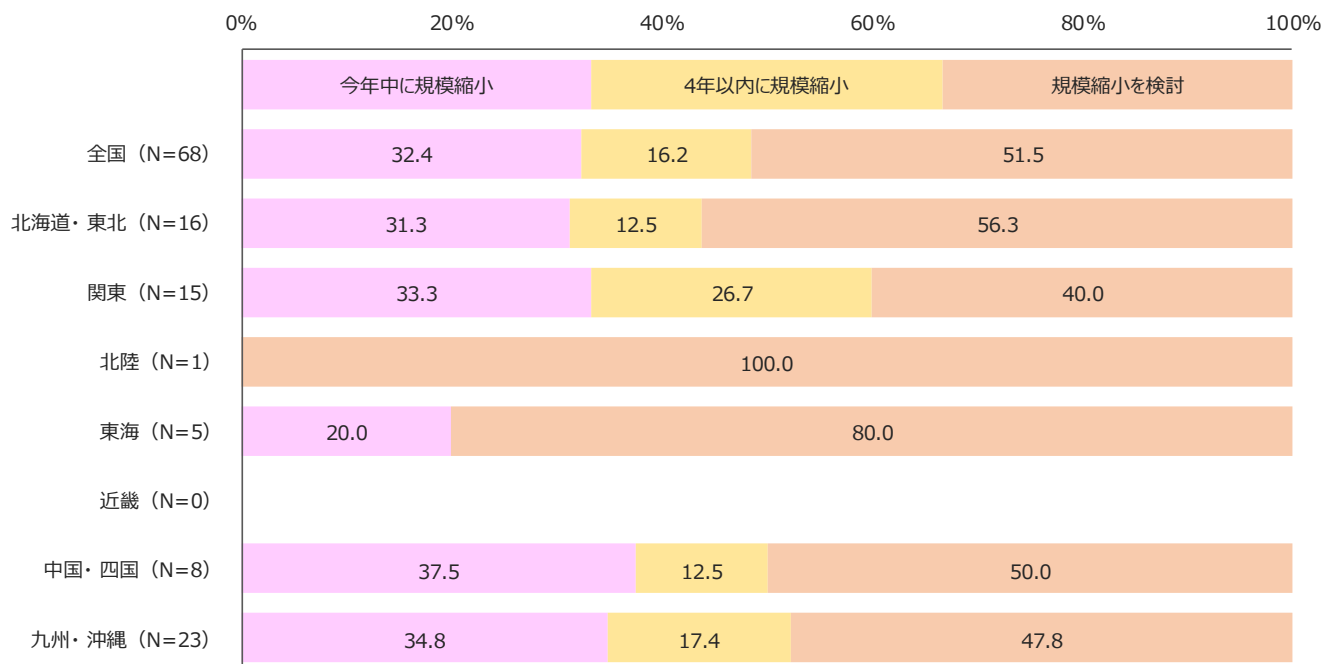
- ⑦ 「規模縮小予定」の内訳は、「今年中に規模縮小を計画している」が32.4%、「4年以内に規模縮小を計画している」が16.2%、「具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい」が51.5%。
- ⑧ 地域別では、回答農場数が少ないが「中国・四国」で「今年中に規模縮小を計画している」が37.5%と高い。
- ⑨ 子取り用雌豚飼養規模別をみると、「規模拡大予定」は500頭以上の農場で高く、逆に「規模縮小予定」では20～99頭以下の農場で高い傾向。大規模経営で拡大、小規模経営で縮小の傾向が顕著にみられる。

【表65】 規模縮小予定 の内訳：地域別 (N=68)

	N=	規模縮小予定		
		今年中に規模縮小を計画している	4年以内に規模縮小を計画している	具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい
全国	68	32.4 (22)	16.2 (11)	51.5 (35)
北海道・東北	16	31.3 (5)	12.5 (2)	56.3 (9)
関東	15	33.3 (5)	26.7 (4)	40.0 (6)
北陸	1	0.0	0.0	100.0 (1)
東海	5	0.0	0.0	80.0 (4)
近畿	-	-	-	-
中国・四国	8	37.5 (3)	12.5 (1)	50.0 (4)
九州・沖縄	23	34.8 (8)	17.4 (4)	47.8 (11)

(経営体数) (% (経営体数))

【図22】 規模縮小予定 の内訳：地域別 (N=68)



【表66】 今後の養豚経営の意向：子取り用雌豚飼養規模別（N=524）

	N=	規模拡大予定	増減なく、現状を維持していく	規模縮小予定
全体	524	19.5 (102)	68.7 (360)	11.8 (62)
1～19頭	46	4.3 (2)	80.4 (37)	15.2 (7)
20～49頭	42	7.1 (3)	64.3 (27)	28.6 (12)
50～99頭	72	12.5 (9)	68.1 (49)	19.4 (14)
100～199頭	96	21.9 (21)	66.7 (64)	11.5 (11)
200～499頭	136	18.4 (25)	72.1 (98)	9.6 (13)
500～999頭	63	28.6 (18)	65.1 (41)	6.3 (4)
1,000頭～	69	34.8 (24)	63.8 (44)	1.4 (1)

(経営体数) (% (経営体数))

【表67】 経営を拡大するの内訳：子取り用雌豚飼養規模別（N=99）

	N=	規模拡大予定		
		今年中に規模拡大	4年以内に規模拡大	規模拡大を検討意向
全体	99	8.1 (8)	52.5 (52)	39.4 (39)
1～19頭	2	0.0 (0)	50.0 (1)	50.0 (1)
20～49頭	3	0.0 (0)	66.7 (2)	33.3 (1)
50～99頭	9	11.1 (1)	66.7 (6)	22.2 (2)
100～199頭	20	20.0 (4)	40.0 (8)	40.0 (8)
200～499頭	25	4.0 (1)	52.0 (13)	44.0 (11)
500～999頭	17	5.9 (1)	41.2 (7)	52.9 (9)
1,000頭～	23	4.3 (1)	65.2 (15)	30.4 (7)

(経営体数) (% (経営体数))

【表68】 経営を縮小するの内訳：子取り用雌豚飼養規模別（N=60）

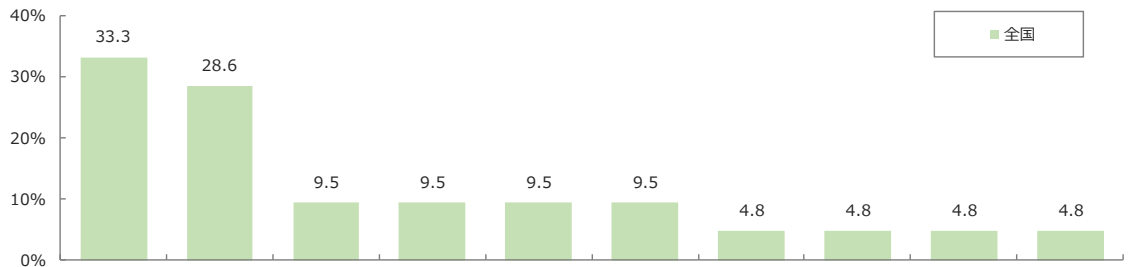
	N=	規模縮小予定		
		今年中に規模縮小を計画している	4年以内に規模縮小を計画している	具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい
全体	60	35.0 (21)	18.3 (11)	46.7 (28)
1～19頭	7	57.1 (4)	14.3 (1)	28.6 (2)
20～49頭	11	36.4 (4)	27.3 (3)	36.4 (4)
50～99頭	14	28.6 (4)	21.4 (3)	50.0 (7)
100～199頭	11	18.2 (2)	27.3 (3)	54.5 (6)
200～499頭	12	41.7 (5)	0.0	58.3 (7)
500～999頭	4	50.0 (2)	0.0	50.0 (2)
1,000頭～	1	0.0	100.0 (1)	0.0

(経営体数) (% (経営体数))

□ 廃業・廃業予定

- ① 「廃業」の理由を回答した21経営体で見ると、「健康上の理由」が33.3%で最も高く、次いで「高齢化」28.6%となっている。

【図23】 廃業理由：複数回答可・地域別（N=21）



	N =	健康上の理由	高齢化	飼料高騰	後継者がいない	農場改編	他界	施設の老朽化	経営悪化	需要低下	豚熱のため
全国	21	33.3 (7)	28.6 (6)	9.5 (2)	9.5 (2)	9.5 (2)	9.5 (2)	4.8 (1)	4.8 (1)	4.8 (1)	4.8 (1)
北海道・東北	4	25.0 (1)	50.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	25.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
関東	6	33.3 (2)	16.7 (1)	0.0 (0)	16.7 (1)	0.0 (0)	16.7 (1)	16.7 (1)	0.0 (0)	16.7 (1)	0.0 (0)
北陸	0	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
東海	3	66.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	33.3 (1)	33.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
近畿	1	0.0 (0)	100.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
中国・四国	1	0.0 (0)	100.0 (1)	100.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
九州・沖縄	6	33.3 (2)	16.7 (1)	16.7 (1)	0.0 (0)	16.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	16.7 (1)	0.0 (0)	16.7 (1)

(経営体数)

(% (経営体数))

■ 12. 豚肉生産に関する意識について

□ 消費者ニーズを踏まえた豚肉の品質に関する意識

- ① 「どのような品質の豚肉生産を目指しているか」では「品質を保ちながら低コスト生産」が57.8%、次いで「脂肪交雑の良いものなど特色ある豚肉生産」29.6%。
- ② 地域別では「北陸」で「品質を保ちながら低コスト生産」が高く、「北海道・東北」「近畿」では「脂肪交雑の良いものなど特色ある豚肉生産」が高い。地域によって品質に対する意識の違いがみられる。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、飼養規模の大きい方が「品質を保ちながら低コスト生産」の優先割合が高く生産性を重視している。
- ④ 「その他」の意見としては「安全安心な豚肉」「自身の納得できる肉質」「ギャップ認証」「ブランド化して自主販売」「市場で売れる肉と消費者の好む肉」といった意見がみられた。

【表69】 消費者ニーズを踏まえた豚肉の品質に関する意識：複数回答可・地域別（N=592）

	N=	品質を保ちながら低コスト生産	脂肪交雑の良いものなど特色ある豚肉生産	実需者のオーダーに基づき生産	SDGsやアニマルウェルフェアへの配慮など消費者の多様な価値観に対応した生産	消費者ニーズは把握しているが、豚肉生産の上では特に対応していない（できていない）	その他	あてはまるものはない
全国	592	57.8	29.6	24.7	20.6	5.4	3.4	8.1
北海道・東北	143	54.5	38.5	30.8	23.8	5.6	1.4	4.9
関東	158	55.7	27.8	26.6	17.7	4.4	3.8	10.1
北陸	30	63.3	33.3	30.0	26.7	0.0	6.7	10.0
東海	67	61.2	20.9	22.4	14.9	4.5	7.5	6.0
近畿	12	58.3	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	8.3
中国・四国	37	54.1	16.2	18.9	40.5	10.8	2.7	2.7
九州・沖縄	145	61.4	27.6	18.6	17.2	6.9	2.8	11.0

（経営体数）注）データは全国の高い順にソートしています。

（%）

【表70】 消費者ニーズを踏まえた豚肉の品質に関する意識：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別（N=514）

	N=	品質を保ちながら低コスト生産	脂肪交雑の良いものなど特色ある豚肉生産	実需者のオーダーに基づき生産	SDGsやアニマルウェルフェアへの配慮など消費者の多様な価値観に対応した生産	消費者ニーズは把握しているが、豚肉生産の上では特に対応していない（できていない）	その他	あてはまるものはない
全体	514	59.5	29.8	25.7	20.4	5.6	3.5	6.2
1～19頭	44	43.2	22.7	18.2	31.8	9.1	2.3	15.9
20～49頭	39	51.3	46.2	17.9	23.1	2.6	10.3	15.4
50～99頭	73	58.9	19.2	23.3	5.5	8.2	2.7	2.7
100～199頭	94	62.8	27.7	29.8	13.8	3.2	5.3	8.5
200～499頭	134	57.5	33.6	27.6	24.6	6.0	3.0	2.2
500～999頭	62	58.1	29.0	22.6	24.2	8.1	1.6	6.5
1000頭～	68	76.5	32.4	30.9	25.0	2.9	1.5	2.9

（経営体数）注）データは全国の高い順にソートしています。

（%）

□ 豚肉の品質のために取組んでいること

- ① 「豚肉の品質の為に取組んでいること」では「飼料を工夫している」が58.1%、次いで「飼養管理方法を工夫している」が55.8%。
- ② 地域別では「近畿」で「飼料を工夫している」が81.8%、「飼養管理方法を工夫している」72.7%と高い。「東海」では「種豚の血統・交配方法を工夫している」が高い傾向。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、1000頭以上の飼養規模で「飼料を工夫している」割合が高く、19頭以下では「飼養管理方法を工夫している」が高くなっている。
- ④ 「その他」の意見としては「常に豚の状態をチェック対応する」「ストレスフリー」「食品安全規格の取得」、「導入なので種豚の血統・交配方法を工夫している」「SQF認定」などの意見がみられた。

【表71】 豚肉の品質のために取組んでいること：複数回答可・地域別（N=532）

	N=	飼料を工夫している	飼養管理方法を工夫している	種豚の血統・交配方法を工夫している	その他	特に取組んでいることはない
全国	532	58.1	55.8	42.9	4.3	7.3
北海道・東北	132	58.3	57.6	47.7	3.0	5.3
関東	140	57.1	51.4	45.7	3.6	8.6
北陸	28	50.0	53.6	42.9	10.7	10.7
東海	60	76.7	45.0	55.0	3.3	8.3
近畿	11	81.8	72.7	27.3	9.1	0.0
中国・四国	35	51.4	57.1	31.4	8.6	11.4
九州・沖縄	126	51.6	62.7	33.3	4.0	6.3

（経営体数） 注）データは全国の高い順にソートしています。

（%）

【表72】 豚肉の品質のために取組んでいること：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別（N=472）

	N=	飼料を工夫している	飼養管理方法を工夫している	種豚の血統・交配方法を工夫している	その他	特に取組んでいることはない
全体	472	57.2	54.7	45.8	3.8	7.0
1～19頭	36	44.4	72.2	38.9	0.0	2.8
20～49頭	32	56.3	46.9	53.1	9.4	12.5
50～99頭	69	47.8	39.1	42.0	0.0	15.9
100～199頭	83	57.8	55.4	39.8	4.8	6.0
200～499頭	129	57.4	56.6	48.1	4.7	4.7
500～999頭	58	51.7	62.1	44.8	3.4	8.6
1000頭～	65	78.5	53.8	53.8	4.6	1.5

（経営体数） 注）データは全国の高い順にソートしています。

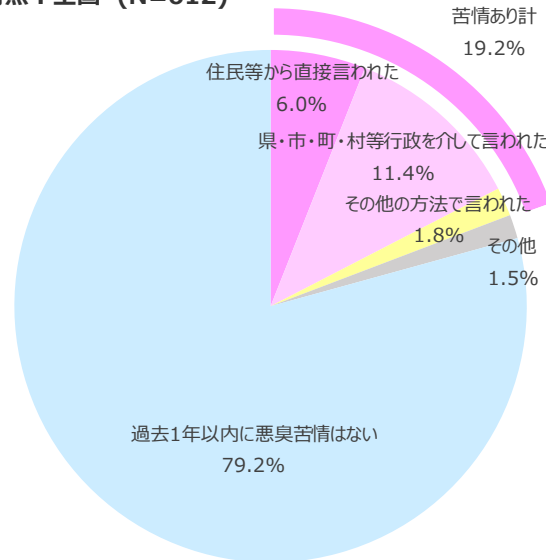
（%）

■ 13.環境対策について

□ 悪臭苦情について

- ① 全体では、「ある」と回答したのは19.2%で、2割弱の農場で苦情を受けている(令和3年度19.3%)。
- ② 苦情については、「県・市・町・村等行政を介して」が11.4%、「住民等から直接言われた」6.0%、「その他の方法で言われた」が1.8%となっている。
- ③ 地域別では「苦情あり」が「近畿」で27.3%、「北陸」で32.4%と高く、逆に「苦情なし」では「中国・四国」で89.2%と、苦情が非常に少ない。これは前年と同じ傾向。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では、「苦情あり」が「1,000頭～」の頭数で40.3%と高く、逆に「苦情なし」は、「20～49頭」91.3%、「1～19頭」88.9%。大規模農場で苦情が多く、小規模農場で苦情が少ない傾向。
- ⑤ 経営形態別では、「苦情あり」は「農業協同組合法人(農協等)の直営養豚場」(注:回答の農場数が少ない)で33.3%と高く、「苦情なし」は「個人経営」「法人経営以外の法人経営」「その他」が高い。
- ⑥ 経営タイプ別では、「繁殖経営」で「過去1年以内に悪臭苦情はない」が85.7%と高い。

【図24】 近隣からの悪臭苦情の有無：全国 (N=612)



【表73】 近隣からの悪臭苦情の有無：地域別 (N=612)

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				その他	過去1年以内に悪臭苦情はない
		言われた計	住民等から直接言われた	県・市・町・村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた		
全国	612	19.2	6.0	11.4	1.8	1.5	79.2
北海道・東北	145	15.9	6.9	7.6	1.4	2.8	81.4
関東	163	23.3	4.9	17.2	1.2	1.2	75.5
北陸	31	32.2	12.9	16.1	3.2	3.2	64.5
東海	67	19.4	4.5	13.4	1.5	3.0	77.6
近畿	11	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0	72.7
中国・四国	37	10.8	0.0	10.8	0.0	0.0	89.2
九州・沖縄	158	17.0	6.3	8.2	2.5	0.0	82.9

(経営体数)

(%)

【表74】 近隣からの悪臭苦情の有無：子取り用雌豚飼養規模別（N=525）

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				その他	過去1年以内に悪臭苦情はない
		言われた計	住民等から直接言われた	県・市・町・村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた		
全体	525	20.2	6.9	11.6	1.7	1.7	78.1
1～19頭	45	11.1	8.9	2.2	0.0	0.0	88.9
20～49頭	46	6.5	0.0	4.3	2.2	2.2	91.3
50～99頭	73	13.7	1.4	9.6	2.7	2.7	83.6
100～199頭	97	15.4	4.1	8.2	3.1	1.0	83.5
200～499頭	134	23.1	4.5	16.4	2.2	2.2	74.6
500～999頭	63	23.8	11.1	12.7	0.0	0.0	76.2
1,000頭～	67	40.3	20.9	19.4	0.0	3.0	56.7

(経営体数) (％)

【表75】 近隣からの悪臭苦情の有無：経営形態別（N=612）

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				その他	過去1年以内に悪臭苦情はない
		言われた計	住民等から直接言われた	県・市・町・村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた		
全体	612	19.2	6.0	11.4	1.8	1.5	79.2
個人経営	161	11.2	3.1	6.2	1.9	1.2	87.6
法人経営	410	23.7	7.8	13.9	2.0	1.7	74.6
上記以外の法人経営	7	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	85.7
農業協同組合法人の直営養豚場	6	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7
その他	28	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	100.0
契約・預託農場である	568	19.7	6.0	11.8	1.9	1.6	78.7
契約・預託農場ではない	33	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	81.8

(経営体数) (％)

【表76】 近隣からの悪臭苦情の有無：経営タイプ別（N=573）

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				その他	過去1年以内に悪臭苦情はない
		言われた計	住民等から直接言われた	県・市・町・村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた		
全体	573	19.0	5.9	11.2	1.9	1.6	79.4
一貫経営	494	19.8	6.5	11.7	1.6	1.8	78.3
肥育	68	17.6	4.4	10.3	2.9	0.0	82.4
繁殖経営	28	14.2	7.1	0.0	7.1	0.0	85.7

(経営体数) (％)

□ふん尿処理の方法について

- ① 「ふん(分離処理)」の処理方法では、「堆肥化(開放式)」が66.8%と最も高く、次いで「堆肥化(密閉式)」41.7%、「廃棄物として処理」1.8%の順となっている。
- ② 地域別では、「九州・沖縄」で「堆肥化(開放式)」が76.5%と高く、「東海」で「堆肥化(密閉式)」が55.9%と高い。「北陸」では「堆肥化(密閉式)」が31.0%と低い。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「199頭以下」と「1000頭～」で「堆肥化(開放式)」が多く、また「200頭以上」の大規模で「堆肥化(密閉式)」が多い傾向となっている。

【表77】 ふんの処理方法：複数回答可・地域別 (N=542)

	N=	堆肥化(開放式)	堆肥化(密閉式)	廃棄物として処理 (処理方法不明)	その他
全国	542	66.8	41.7	1.8	3.0
北海道・東北	137	65.0	43.8	5.1	4.4
関東	142	63.4	48.6	0.0	0.7
北陸	29	62.1	31.0	0.0	6.9
東海	59	59.3	55.9	1.7	0.0
近畿	7	57.1	42.9	0.0	14.3
中国・四国	32	68.8	40.6	0.0	3.1
九州・沖縄	136	76.5	28.7	1.5	3.7

(経営体数)

(%)

【表78】 ふんの処理方法：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=474)

	N=	堆肥化(開放式)	堆肥化(密閉式)	廃棄物として処理 (処理方法不明)	その他
全体	474	65.0	44.3	1.7	2.7
1～19頭	32	75.0	18.8	0.0	12.5
20～49頭	38	71.1	26.3	0.0	7.9
50～99頭	64	73.4	23.4	3.1	0.0
100～199頭	91	74.7	33.0	0.0	1.1
200～499頭	128	50.8	57.8	2.3	3.1
500～999頭	58	55.2	60.3	5.2	0.0
1,000頭～	63	71.4	63.5	0.0	1.6

(経営体数)

(%)

- ④ 「尿(分離処理)」の処理方法では、「浄化処理」が79.3%と最も高く、次いで「液肥化処理」8.8%、「下水道処理」5.7%、「廃棄物として処理」2.7%となっている。
- ⑤ 地域別では、「北陸」「東海」で「浄化処理」が目立って高く、特に「東海」は94.5%と高い。「関東」と「近畿」(注:回答の農場数が少ない)は「下水道処理」が他の地域と比較して高くなっている。
- ⑥ 子取り用雌豚飼養規模別では、「200頭以上」の規模で「浄化処理」が高く90%以上と高く、「50～199頭」では「液肥化処理」が、「49頭以下」では「下水道処理」が高くなっている。

[表79] 尿の処理方法：複数回答可・地域別 (N=522)

	N=	浄化処理	液肥化処理	下水道または農業集落排水への放流	廃棄物として処理 (処理方法不明)	メタン発酵処理	その他
全国	522	79.3	8.8	5.7	2.7	1.1	5.9
北海道・東北	132	75.0	11.4	3.0	5.3	0.8	9.1
関東	139	78.4	12.2	11.5	2.2	0.0	1.4
北陸	29	86.2	0.0	6.9	0.0	0.0	6.9
東海	55	94.5	1.8	1.8	1.8	0.0	0.0
近畿	8	50.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5
中国・四国	31	71.0	6.5	0.0	0.0	0.0	22.6
九州・沖縄	128	80.5	8.6	3.9	2.3	3.1	5.5

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

[表80] 尿の処理方法：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=457)

	N=	浄化処理	液肥化処理	下水道または農業集落排水への放流	廃棄物として処理 (処理方法不明)	メタン発酵処理	その他
全体	457	82.1	8.5	5.7	2.4	0.9	4.4
1～19頭	31	51.6	12.9	16.1	3.2	0.0	19.4
20～49頭	33	48.5	12.1	12.1	12.1	0.0	15.2
50～99頭	61	73.8	16.4	6.6	3.3	1.6	4.9
100～199頭	89	80.9	13.5	2.2	2.2	1.1	3.4
200～499頭	125	92.8	4.8	5.6	0.0	0.0	0.8
500～999頭	56	92.9	1.8	3.6	3.6	1.8	0.0
1,000頭～	62	93.5	3.2	3.2	0.0	1.6	3.2

(経営体数) 注) データは全体の高い順にソートしています。

(%)

- ⑦ 「ふん尿混合」の処理方法では、「堆肥化(開放式)」が62.6%で最も高く、次いで「浄化処理」40.3%、「堆肥化(密閉式)」17.7%、「下水道処理」6.2%、「液肥化処理」4.5%の順となっている。
- ⑧ 地域別では、「北陸」「東海」「中国・四国」で「堆肥化(開放式)」が高く、「関東」「九州・沖縄」で「浄化処理」が高い。また「中国・四国」は「堆肥化(密閉式)」でも他の地域と比較して高くなっている。
- ⑨ 子取り用雌豚飼養規模別では、「99頭以下」では「堆肥化(開放式)」が高く、「200頭以上」では「浄化処理」「堆肥化(密閉式)」が高い。特に「1,000頭～」では「浄化処理」が75.8%となっている。

【表81】 混合の処理方法：複数回答可・地域別 (N=243)

	N=	堆肥化 (開放式)	浄化処理	堆肥化 (密閉式)	下水道または 農業集落排 水への放流	液肥化処理	廃棄物として 処理(処理 方法不明)	メタン 発酵処理	その他
全国	243	62.6	40.3	17.7	6.2	4.5	2.5	2.1	2.9
北海道・東北	48	66.7	35.4	16.7	0.0	6.3	8.3	0.0	2.1
関東	71	59.2	47.9	18.3	7.0	4.2	0.0	1.4	2.8
北陸	10	70.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東海	28	71.4	39.3	14.3	3.6	0.0	0.0	7.1	0.0
近畿	9	55.6	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0	11.1	0.0
中国・四国	18	77.8	11.1	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九州・沖縄	59	54.2	50.8	18.6	8.5	8.5	3.4	1.7	6.8

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

【表82】 混合の処理方法：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=198)

	N=	堆肥化 (開放式)	浄化処理	堆肥化 (密閉式)	下水道または 農業集落排 水への放流	液肥化処理	廃棄物として 処理(処理 方法不明)	メタン 発酵処理	その他
全体	198	61.6	45.5	20.7	5.6	4.0	2.0	1.5	2.5
1~19頭	19	73.7	10.5	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	5.3
20~49頭	21	66.7	23.8	14.3	0.0	9.5	4.8	0.0	9.5
50~99頭	26	73.1	26.9	3.8	7.7	3.8	7.7	0.0	0.0
100~199頭	30	63.3	40.0	16.7	3.3	3.3	0.0	3.3	3.3
200~499頭	38	55.3	55.3	26.3	10.5	2.6	0.0	0.0	2.6
500~999頭	31	54.8	58.1	35.5	6.5	6.5	3.2	3.2	0.0
1,000頭～	33	54.5	75.8	30.3	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0

(経営体数) 注) データは地域別(表70)と同じ順にソートしています。

(%)

□ 汚水浄化処理施設について

- ① 汚水浄化処理施設の有無では「持っている」が78.9%、「持っていない」が21.1%。
- ② 処理施設を持っている農場のうち、「一年で改修・新設した」が23.3%、「改修・新設していない」が76.7%。「施設や機械の更新計画をしている」が28.7%、「計画していない」は71.3%であった。
- ③ 処理施設を持っていない農場のうち施設を新設する「意向がある」は15.7%にとどまった。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では浄化処理施設を持っている農場の「1000頭～」で「改修・新築した」が高く、「500頭以上」では施設や機械の更新を「計画している」が高くなっている。

【表83】 汚水浄化処理施設に関する意向：地域別 (N=592)

	汚水浄化処理施設を持っている (78.9% N=467)						汚水浄化処理施設を持っていない (21.1% N=125)		
	一年で改修・新設したか		施設や機械の更新計画の有無				施設を新設する意向の有無		
	改修・ 新設した	改修・ 新設していない	計画している		計画していない		意向がある	意向がない	
全国	460	23.3	76.7	432	28.7	71.3	121	15.7	84.3
北海道・東北	106	21.7	78.3	99	38.4	61.6	33	9.1	90.9
関東	110	22.7	77.3	102	26.5	73.5	41	14.6	85.4
北陸	28	21.4	78.6	28	17.9	82.1	4	0.0	100.0
東海	58	22.4	77.6	56	25.0	75.0	8	12.5	87.5
近畿	7	57.1	42.9	7	28.6	71.4	4	25.0	75.0
中国・四国	24	0.0	100.0	22	9.1	90.9	12	33.3	66.7
九州・沖縄	127	28.3	71.7	118	30.5	69.5	19	21.1	78.9
	(経営体数)	(%)	(%)	(経営体数)	(%)	(%)	(経営体数)	(%)	(%)

【表84】 汚水浄化処理施設に関する意向：子取り用雌豚頭数別 (N=512)

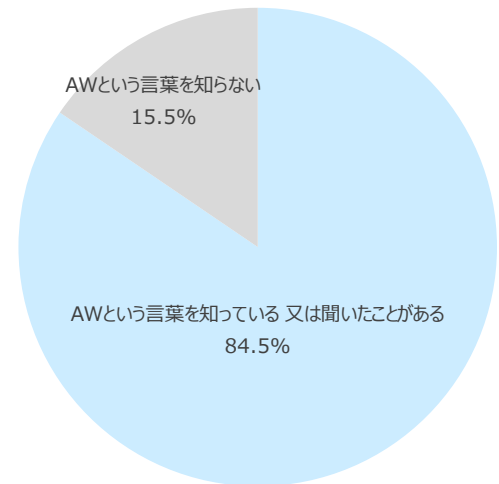
	汚水浄化処理施設を持っている (81.6% N=418)						汚水浄化処理施設を持っていない (18.4% N=94)		
	一年で改修・新設したか		施設や機械の更新計画の有無				施設を新設する意向の有無		
	改修・ 新設した	改修・ 新設していない	計画している		計画していない		意向がある	意向がない	
全体	412	21.8	78.2	389	28.8	71.2	93	18.3	81.7
1～19頭	24	12.5	87.5	21	19.0	81.0	17	17.6	82.4
20～49頭	25	16.0	84.0	23	8.7	91.3	12	0.0	100.0
50～99頭	50	8.0	92.0	47	29.8	70.2	20	10.0	90.0
100～199頭	74	16.2	83.8	73	23.3	76.7	21	33.3	66.7
200～499頭	117	23.1	76.9	112	26.8	73.2	15	26.7	73.3
500～999頭	58	27.6	72.4	55	40.0	60.0	5	20.0	80.0
1000頭～	64	37.5	62.5	58	39.7	60.3	3	0.0	100.0
	(経営体数)	(%)	(%)	(経営体数)	(%)	(%)	(経営体数)	(%)	(%)

■ 14.アニマルウェルフェア(AW)について

□ AWの認知度

- ① アニマルウェルフェア(以下、AW)という言葉についての認知状況は、「AWという言葉を知っている又は聞いたことがある」が84.5%、「AWという言葉を知らない」が15.5%。
- ② 地域別では「近畿」で認知率が100%、逆に「東海」「九州・沖縄」では「知らない」が2割以上。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「500頭以上」の規模で認知率は100%。「99頭以下」の規模では「知らない」が高い。

[図25] アニマルウェルフェアの認知：全国 (N=582)



[表85] AWと管理指針の認知：地域別 (N=582)

		AWという言葉を知っている 又は聞いたことがある	AWという言葉を知らない
全国	582	84.5	15.5
北海道・東北	141	88.7	11.3
関東	154	87.0	13.0
北陸	31	87.1	12.9
東海	65	78.5	21.5
近畿	11	100.0	0.0
中国・四国	37	89.2	10.8
九州・沖縄	143	77.6	22.4

(経営体数) (%)

[表86] AWと管理指針の認知：子取り用雌豚頭数別 (N=508)

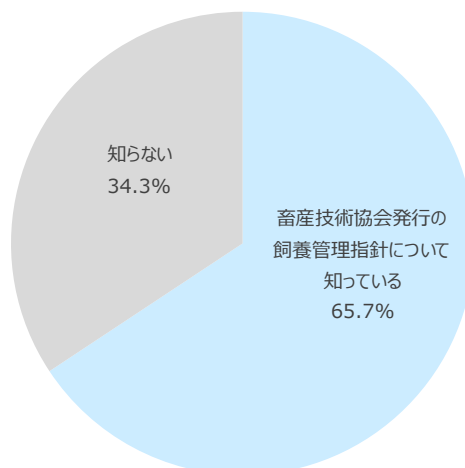
		AWという言葉を知っている 又は聞いたことがある	AWという言葉を知らない
全体	508	86.6	13.4
1～19頭	43	72.1	27.9
20～49頭	39	66.7	33.3
50～99頭	69	71.0	29.0
100～199頭	94	89.4	10.6
200～499頭	133	90.2	9.8
500～999頭	63	100.0	0.0
1000頭～	67	100.0	0.0

(経営体数) 51 (%)

□AW認知者の「畜産技術協会発行の飼養管理指針」の認知度

- ① AWの認知者のうち、畜産技術協会発行の飼養管理指針については「知っている」が65.7%、「知らない」が34.3%。
- ② 地域別では、「北陸」「近畿」「中国・四国」で「知っている」が8割前後と高く、「東海」では「知らない」が45.8%と目立って高い。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「1～19頭」と「500頭以上」の規模で「知っている」が高く、「20～499頭」の規模で「知らない」が高い。

【図26】 畜産技術協会発行の飼養管理指針の認知度：全国 (N=484)



【表87】 【認知者】 畜産技術協会発行の飼養管理指針の認知度：地域別 (N=484)

	N=	知っている	知らない
全国	484	65.7	34.3
北海道・東北	124	67.7	32.3
関東	134	61.9	38.1
北陸	24	79.2	20.8
東海	48	54.2	45.8
近畿	11	81.8	18.2
中国・四国	33	75.8	24.2
九州・沖縄	110	65.5	34.5

(経営体数) (%)

【表88】 【認知者】 畜産技術協会発行の飼養管理指針の認知度：子取り用雌豚頭数別 (N=435)

	N=	知っている	知らない
全体	435	66.2	33.8
1～19頭	31	74.2	25.8
20～49頭	25	60.0	40.0
50～99頭	47	59.6	40.4
100～199頭	84	54.8	45.2
200～499頭	119	55.5	44.5
500～999頭	63	84.1	15.9
1000頭～	66	86.4	13.6

(経営体数) (%)

□AWに配慮した飼養管理の課題

- ① AWに配慮した飼養管理を行うにあたり課題となっていることは、「生産コストが上がる」52.0%、「農場生産性が下がる」42.3%、「対応する人員不足」39.3%、「飼養頭数を減らす必要がある」37.0%、「何から取り組んで良いのかわからない」22.2%。
- ② 地域別では、「北陸」で「生産コストが上がる」、「北陸」「九州・沖縄」で「農場生産性が下がる」、「北海道・東北」「北陸」「中国・四国」で「飼養頭数を減らす必要がある」などが高い。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、農場の規模が大きくなるにつれ「生産コストが上がる」「農場生産性が下がる」「飼養頭数を減らす必要がある」などが高くなっている。

【表89】 【認知者】AWに配慮した飼養管理の課題：複数回答可・地域別（N=433）

	N=	生産コストが 上がる	農場生産性 が下がる	対応する 人員不足	飼養頭数を 減らす必要 がある	何から取り組 んで良いの かわからない	課題はない	その他
全国	433	52.0	42.3	39.3	37.0	22.2	13.2	7.4
北海道・東北	118	55.1	36.4	43.2	43.2	18.6	13.6	8.5
関東	119	52.1	42.0	33.6	28.6	29.4	16.8	5.0
北陸	24	62.5	66.7	29.2	45.8	16.7	8.3	8.3
東海	41	48.8	43.9	34.1	34.1	19.5	12.2	7.3
近畿	9	44.4	44.4	55.6	33.3	22.2	11.1	11.1
中国・四国	27	44.4	25.9	33.3	48.1	22.2	11.1	0.0
九州・沖縄	95	49.5	47.4	46.3	35.8	20.0	10.5	10.5

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

【表90】 【認知者】AWに配慮した飼養管理の課題：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別（N=394）

	N=	生産コストが 上がる	農場生産性 が下がる	対応する人員 不足	飼養頭数を 減らす必要 がある	何から取り組 んで良いの かわからない	課題はない	その他
全体	394	52.8	43.1	39.1	36.8	21.1	13.2	7.6
1～19頭	28	21.4	17.9	28.6	17.9	17.9	28.6	10.7
20～49頭	21	42.9	33.3	14.3	28.6	33.3	14.3	28.6
50～99頭	39	51.3	41.0	33.3	28.2	30.8	10.3	7.7
100～199頭	73	46.6	42.5	35.6	39.7	24.7	11.0	4.1
200～499頭	113	58.4	45.1	48.7	40.7	23.0	12.4	4.4
500～999頭	58	56.9	44.8	37.9	36.2	17.2	10.3	6.9
1,000頭～	62	64.5	54.8	43.5	43.5	8.1	14.5	9.7

(経営体数) 注) データは地域別(表86)と同じ順にソートしています。

(%)

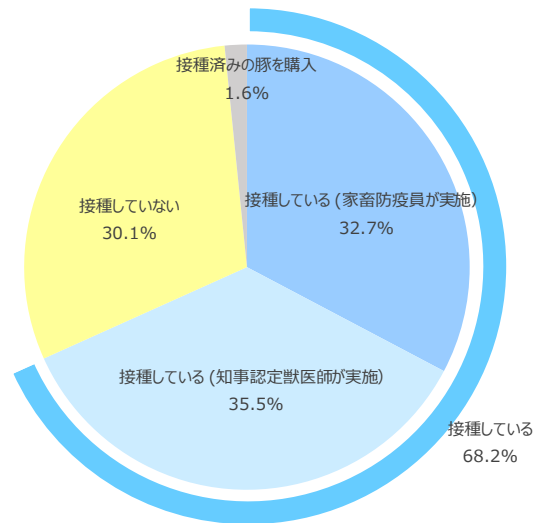
■ 15. 豚熱ワクチンについて

□ 豚熱ワクチンの接種状況

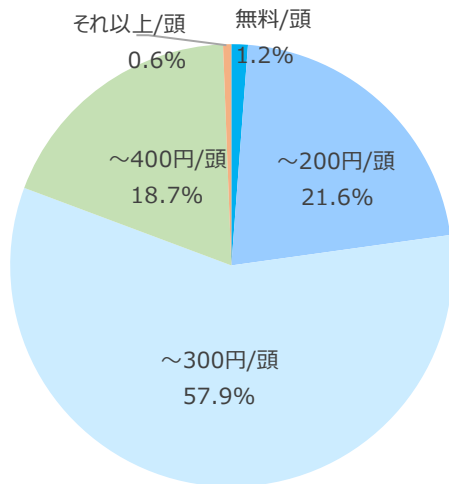
- ① 接種率は、「接種している」68.2%（「家畜防疫員が実施」32.7%+「知事認定獣医師が実施」35.5%）、「接種していない」30.1%、「接種済みの豚を購入」1.6%。
- ② 接種価格は、家畜防疫員では「～300円/頭」、知事認定獣医師では「～400円/頭」が最も高い。
- ③ 非接種農場の接種意向は、「北海道」は「接種したくない」が68.6%と高く、逆に「九州・沖縄」は「接種範囲に指定されればしたい」67.1%、「接種範囲に指定されなくてもほしい」8.6%と接種への希望が高い。

※調査集計時期：2022年9月～11月

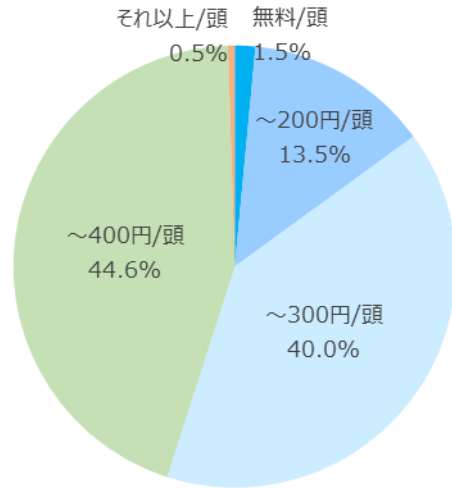
【図27】 豚熱ワクチンの接種状況：全国（N=614）



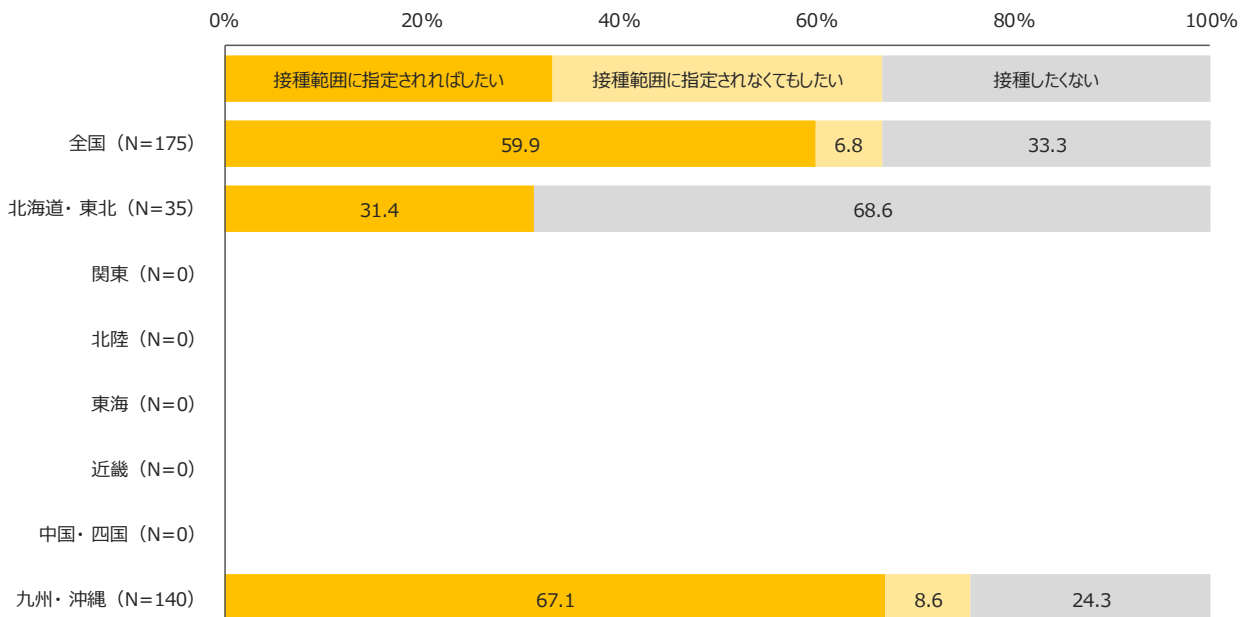
【図28】 【家畜防疫員】現在の接種価格：全国（N=171）



【図29】 【知事認定獣医師】現在の接種価格：全国（N=177）

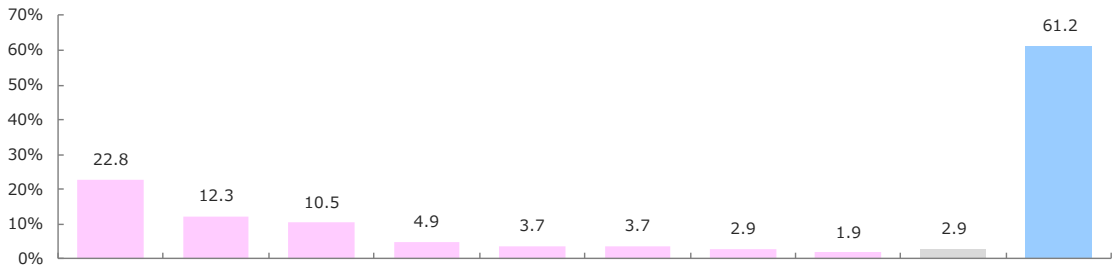


【図30】 豚熱ワクチンの接種意向：地域別（N=175）



- ④ 豚熱ワクチン接種による影響は、「影響はなかった」が61.2%（前年比6.4ポイント増）。影響があったとする内容は「種豚購入」22.8%、「精液購入」12.3%、「肉豚出荷」10.5%など。
- ⑤ 地域別では、「中国・四国」「九州・沖縄」で他の地域と比較すると影響を受けた項目が多い。
- ⑥ 豚熱ワクチンの接種に対する考え方は、「現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い」43.0%、「全国で接種すべきである」57.0%。「九州・沖縄」で「現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い」が73.4%と高い。

【図31】 地域別豚熱ワクチン接種により受けた影響：地域別（N=513）

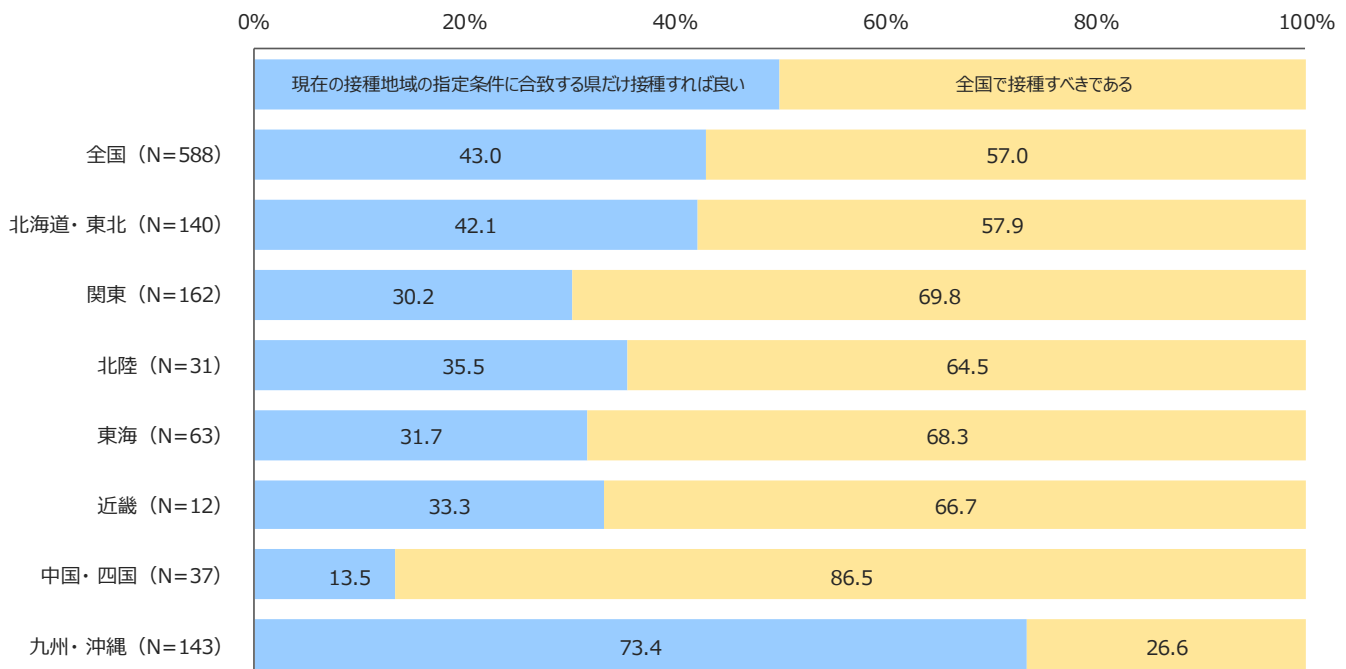


	N =	種豚購入	精液購入	肉豚出荷	種豚販売	精液販売	県をまたぐ自社内での農場移動	子豚販売	肥育素豚購入	その他	影響はなかった
全国	513	22.8	12.3	10.5	4.9	3.7	3.7	2.9	1.9	2.9	61.2
北海道・東北	125	29.6	16.8	8.8	8.0	6.4	3.2	2.4	0.0	0.0	56.8
関東	156	7.7	1.9	10.9	3.2	3.2	2.6	2.6	1.3	4.5	76.9
北陸	28	10.7	0.0	7.1	3.6	3.6	7.1	7.1	0.0	0.0	82.1
東海	67	10.4	4.5	14.9	4.5	3.0	4.5	4.5	1.5	6.0	65.7
近畿	12	8.3	16.7	8.3	0.0	0.0	16.7	16.7	8.3	8.3	50.0
中国・四国	34	35.3	32.4	23.5	2.9	0.0	2.9	0.0	2.9	5.9	35.3
九州・沖縄	91	49.5	25.3	5.5	5.5	3.3	3.3	1.1	5.5	1.1	41.8

(経営体数) 注) 全体の高い順にソート

(%)

【図32】 豚熱ワクチンの接種に対する考え方：地域別（N=588）



■ 16.ご意見・ご要望について

調査票に設けている、ご意見・ご要望欄の回答の一部を紹介します。
(本文内容は個人情報等の関係から、一部内容を変更しています。また、いただいた内容は調査票集計期間である2022年9月～11月時点での内容となります。)

飼料について

- ・飼料高騰対策を切にお願いします。
- ・丸粒トウモロコシを使用した自家配合飼料のため経営が厳しい。
- ・飼料用米を飼料メーカーに入るルートを作って飼料価格を下げてほしい。
- ・資材と飼料価格の高騰が経営継続を困難にしている。
- ・飼料の高騰が深刻で、円安に関しても外国人技能実習生たちの送金問題が出てきている。

調査票について

- ・農場規模別のアンケートがあっても良いのではないか。
- ・昭和(生まれ)には難しい。
- ・この度のネット入力は無効でした。

その他

- ・小口経営へも法人と同等の補助事業をお願いしたい。
- ・畜産県は(伝染病による殺処分は)埋却ではなくレンダリング処理施設を持つべきである。
- ・汚水を低コストで一般排水基準にする方法があれば知りたい。

昨年度調査に引き続き、飼料高騰に対するご意見を多数いただき、特に、飼料高騰により経営が困難となっている旨のご意見を多くいただきました。

また、紹介は割愛しますが、豚熱やワクチン接種についてもご意見をいただいております。調査票集計期間中に豚熱の予防ワクチン接種体制の見直しがあり、家畜防疫員及び知事認定獣医師の指示・監督の下、飼養衛生管理者によるワクチン接種が可能となりました。衛生・疾病対策については、昨年度から別事業にて調査・集計を実施していますので合わせてご覧ください。

調査票については設問数の多さや回答の煩雑性についてご意見いただいた半面、ネット入力の利便性についてもご意見いただきました。今後も皆様により回答していただけるよう、実態調査の調査事項検討会でも引き続き協議してまいります。

ご意見・ご要望欄にご回答いただきました皆様、ありがとうございました。

令和4年度

養豚農業実態調査調査票

(事務局記入欄)

--	--	--	--	--	--	--	--

WEBで回答の方はこちらから
<https://questant.jp/q/buta-cyousa2022>



2022年度 養豚農業実態調査

基本情報

フリガナ		フリガナ		性別	男・女
法人名等		経営者名		生年	大正・昭和・平成・西暦 年
農場所在地	〒 ー それ以下の丁目や番地 都 道 市 区 府 県 郡 町 村				
連絡先住所 (事務所・自宅等、 上記と別であれば 記載)	〒 ー それ以下の丁目や番地 都 道 市 区 府 県 郡 町 村				
郵便物の送付先	1. 農場所在地宛て		2. 連絡先住所宛て		
電話番号			携帯電話番号		
メールアドレス			FAX番号		
記入者名 (経営者と異なる場合のみ記載)	経営者から見た記入者の関係	1. 本人 2. 家族：父・母・子・配偶者・その他 () 3. 従業員：役職 () 4. 関連団体 ()		記入者連絡先 (メールアドレス・携帯電話等)	
廃業等について	1. 廃業する予定はない → 2. 廃業予定 → Q1へ ↳ 廃業予定年月：西暦 年 月 予定 3. すでに廃業している → アンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。 ↳ 廃業年月：西暦 年 月 廃業理由：				

現業の経営状況についてお伺いします

Q1. 現在の経営形態をお知らせください。(○はひとつ)

1. 個人経営 (家族労働主体) 2. 法人経営 (農事組合法人・有限会社・株式会社) 3. 上記以外の法人経営 (具体的に：) 4. 農業協同組合法人 (農協等) の直営養豚場 5. その他 (都道府県、公益法人、学校法人等上記1から4以外)

Q2. 現在、契約・預託農場ですか？(○はひとつ)

1. 契約・預託農場ではない 2. 契約・預託農場である (会社、農協、民間養豚場等)
--

Q3. 現在の養豚に従事している方をお知らせください。(〇はいくつでも) またその人数をお知らせください。

該当する人数を記入

1. 家族労働 (経営主本人、配偶者、子、孫、きょうだい、父母、祖父母等)	→	<input type="text"/>	人
2. 常勤雇員 (社員、契約社員、パート、アルバイト)	→	<input type="text"/>	人
3. 非常勤雇員 (必要な日、必要な時間で雇用)	→	<input type="text"/>	人
4. その他 (豚肉加工・販売など担当)	→	<input type="text"/>	人

Q4. 現在、農場の人員は足りていますか? (〇はひとつ)

1. 人員は足りている	2. 人員は足りていない
-------------	--------------

Q5. 後継者についてお知らせください。(〇はひとつ) また後継者や対象者のいる方は年齢をご記入ください。

1. 後継者は決まっている	→	後継者の年齢	<input type="text"/>	歳
2. 対象者はいるが、現在は決まっていない	→	対象者の年齢	<input type="text"/>	歳
3. 自分の年齢が若いので考えていない				
4. 後継者はいない・後継者は考えていない				
5. 経営形態が後継者と関係ない (株式会社等)				

Q6. 経営タイプについてお知らせください。(〇はひとつ)

1. 肉豚生産	→	<input type="text" value="Q7^"/>
2. 繁殖経営	→	<input type="text" value="Q8^"/>
3. 肉豚生産・繁殖経営の両方 (一貫経営)	→	<input type="text" value="Q7^"/>

Q7. 肉豚生産について該当する箇所に農場数をご記入ください。

経営タイプ	農場形態	飼養形態	飼養豚	所有農場数	うち、他都道府県にある農場数
肉豚生産	1. 一貫生産農場			ヶ所	ヶ所
		2. マルチサイト経営	1. 繁殖	純粋種豚 ①	ヶ所
	純粋種豚+子取り用雌豚 (PS) ②			ヶ所	ヶ所
	子取り用雌豚 (PS) ③			ヶ所	ヶ所
	2. 肥育		子豚 (ウイントウフィニッシュ含む) ①	ヶ所	ヶ所
			肥育豚 (ウイントウフィニッシュ含む) ②	ヶ所	ヶ所
	3. 肥育			ヶ所	ヶ所

Q8. 繁殖経営について該当する箇所に農場数をご記入ください。

経営タイプ	農場形態	飼養形態	飼養豚	所有農場数	うち、他都道府県にある農場数
繁殖経営	繁殖		純粋種豚 ①	ヶ所	ヶ所
			純粋種豚+子取り用雌豚 (PS) ②	ヶ所	ヶ所
			子取り用雌豚 (PS) ③	ヶ所	ヶ所

Q9. 飼養している頭数の合計をお知らせください。

2022年8月1日現在の頭数を記入

飼養合計頭数		頭
--------	--	---

合計頭数が合致する様にご記入ください。

Q10. 飼養している品種別の頭数をご記入ください。(飼育している合計頭数が合致する様にご記入ください)

純粋種	品種	ランドレース (L)	大ヨークシャー (W)	中ヨークシャー (Y)	パークシャー (B)	デュロック (D)	多産系 (TOPIGS/ダンブレッド等)	その他	計
	♀頭数 (子取り用雌豚)		頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
♂頭数 (種雄豚)		頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
交雑種	品種	LW	WL	LW.WL 何れか	DB	BD	その他の組み合わせ	海外ハイブリッド (ハイポー/ケンボロー等)	計
	♀頭数 (子取り用雌豚)	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
	♂頭数 (種雄豚)	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
育成豚〔繁殖利用予定で未交配 (雌、雄) のもの〕									頭
子豚 (子豚舎、子豚豚房で飼養しているもの + 哺乳中のもの)									頭
肥育豚 (肥育舎、肥育豚房で飼養しているもの)									頭

海外メーカーの種豚についてお伺いします

Q11. 海外メーカーの種豚を導入していますか？ 導入している場合は飼育頭数をご記入ください。

※海外メーカーの種豚とは、TOPIGS、ダンブレッド、ハイポー、ケンボロー等の海外で販売されている種豚で、純粋種、交雑種を問いません。

1. 導入している (飼育している) _____ 2. 導入していない	種雄豚		頭
	子取り用雌豚		頭

飼養頭数・出荷頭数等についてお伺いします

Q12. 導入・出荷頭数についてお知らせください。(該当する箇所に頭数を記入)

2021年度の決算期間の総計を記入

純粋種豚導入頭数	→		頭	年間肉豚出荷頭数	→		頭
子取り用雌豚 (PS) 導入頭数	→		頭	種豚候補豚 (純粋種・F1等) の販売頭数	→		頭
肥育豚導入頭数	→		頭	年間肉用子豚出荷頭数 (販売)	→		頭
				繁殖豚 (雄、雌) 年間廃用頭数	→		頭

Q13. 繁殖成績についてお知らせください。

年間種付け頭数（1年間に種付けした母豚の全頭数）
年間総分娩頭数（1年間に分娩した母豚の全頭数）
回転数（1母豚あたりの年間平均分娩回数）
1腹当たり平均産子数（分娩頭数）
1腹当たり平均哺乳開始頭数
1腹当たり平均離乳頭数
年間離乳後事故率(事故頭数÷離乳頭数×100)

2021年度の決算期間の総計を記入

→	総	<input type="text"/>	頭
→	総	<input type="text"/>	頭
→	平均	<input type="text"/>	回転
→	平均	<input type="text"/>	頭
→	平均	<input type="text"/>	頭
→	平均	<input type="text"/>	頭
→		<input type="text"/>	%

Q14. 肉豚出荷日齢、出荷体重、枝肉重量についてお知らせください。

肉豚出荷日齢平均（生後日齢）
年間肉豚総出荷生体重（1年間に出荷した肉豚の総体重）
年間総枝肉重量（1年間に出荷した枝肉の総重量）

2021年度の決算期間の総計を記入

→	平均	<input type="text"/>	日齢
→	総	<input type="text"/>	kg
→	総	<input type="text"/>	kg

Q15. 肉豚の評価方法についてお知らせください。（○はいくつでも）

1. 日格協が実施する枝肉取引規格に基づく評価（格付）	→	<input type="text"/>	頭
2. 独自の評価基準（パッカー・ブランド化・協議会などの自主的な評価）	→	<input type="text"/>	頭
3. 評価をしていない（生体販売など）【評価していない理由下記に】	↓		
4. 評価の方法を把握していない			

Q16. 評価をしていない理由をお知らせください。

具体的な理由：

Q17. 年間上物率、年間枝肉歩留まり率について教えてください。

年間上物率（格付している豚） % 枝肉歩留まり率 %

Q18. 相対取引の実施状況についてお知らせください。（○はひとつ）

1. 相対取引を実施している	→	契約枝肉重量： 最低重量 <input type="text"/> kg ~ 最高重量 <input type="text"/> kg
2. 相対取引を実施していない		

Q19. ベンチマークに参加していますか。（○はひとつ）

1. 参加している	→	参加しているベンチマークの名称をご記入ください。（いくつでも） <input type="text"/>
2. 参加していない		

※ベンチマークとは：養豚農家から生産データなどを定期的に収集し、生産項目の優れた点、劣った点等の評価結果により、改善目標値との差異を改善することにより増収益を推定し、養豚経営の向上を行う手法を指します。

農業共済（家畜共済含む）についてお伺いします

Q20. 農業共済（家畜共済含む）の加入状況と希望する家畜共済についてお伺いします。

- 1. 農業共済に加入している _____
- 2. 農業共済に加入していない _____

Q21. 加入していない理由をお知らせください。（〇はいくつでも）

- 1. 共済掛金が高い
- 2. 加入方法がわかりにくい
- 3. 掛金に対して支払額が見合わない
- 4. その他（具体的に： _____）

Q22. どのような共済が望ましいですか？（〇はいくつでも）

- 1. 加入方法、支払額のわかりやすさ
- 2. 共済掛金を低くする
- 3. 哺乳子豚を共済対象に含める
- 4. 補償期間の延長
- 5. その他（具体的に： _____）

交配方法とAIについてお伺いします

Q23. 交配の方法についてお知らせください。（〇はいくつでも）

- 1. 自然交配のみ _____
- 2. 人工授精のみ _____
- 3. 自然交配+人工授精の併用 _____

- 1. 自然交配 1 回のみ
- 2. 自然交配 2 回
- 3. 自然交配 3 回

Q26へ

右記の回数に当てはまらない場合はご記入ください。

具体的に： _____

- 1. 人工授精 1 回のみ
- 2. 人工授精 2 回
- 3. 人工授精 3 回

Q24へ

- 1. 自然交配 1 回+人工授精 1 回
- 2. 自然交配 1 回+人工授精 2 回
- 3. 自然交配 2 回+人工授精 1 回

Q24へ

Q24. 【Q23で人工授精をしている方へ】人工授精における深部注入の実施についてお知らせください。（〇はひとつ）

- 1. 全て深部注入で行っている
- 2. 深部注入と普通の人工授精を併用している
- 3. 深部注入は行っていない
- 4. 深部注入は行っていないが、今後検討したい

Q25. 【Q23で人工授精をしている方へ】人工授精における精液の入手方法についてお知らせください。（〇はひとつ）

- 1. すべて自家採精
- 2. すべて外部（公的試験場・AIセンター）導入
- 3. 自家採精と外部導入を併用

飼料についてお伺いします

Q26. 飼料の給与形態についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 市販配合飼料のみ (配合割合等を指定してメーカーに配合させたものを含む)
2. 市販配合飼料 + 自家配合飼料
3. 自家配合飼料のみ (丸粒トウモロコシ単味飼料やエコフィード等の飼料原料を調達して自ら配合・調整したもの)

Q27. 現在使用している飼料をお知らせください。(○はいくつでも) また、使用飼料の年間使用量をご記入ください。

2021年度の決算期間の総計を記入

配合飼料	1. 配合飼料	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t		
	2. エコフィード※利用配合飼料	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t	→	うちエコフィードの配合割合 <input style="width: 50px;" type="text"/> %
	3. 飼料用米利用配合飼料	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t	→	うち飼料用米の配合割合 <input style="width: 50px;" type="text"/> %
単味飼料	4. 飼料用米	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t		
	5. 国産子実用トウモロコシ	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t		
	6. エコフィード (食品製造副産物等) ※	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t		
	7. エコフィード (厨芥残さ等) ※	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t		
	8. その他の単味飼料	→	<input style="width: 50px;" type="text"/>	t	→	

単味飼料内容を記入	
飼料名 : <input style="width: 80%;" type="text"/>	<input style="width: 50px;" type="text"/> t
飼料名 : <input style="width: 80%;" type="text"/>	<input style="width: 50px;" type="text"/> t
飼料名 : <input style="width: 80%;" type="text"/>	<input style="width: 50px;" type="text"/> t
飼料名 : <input style="width: 80%;" type="text"/>	<input style="width: 50px;" type="text"/> t

【記入上の注意】

※ エコフィードとは、食品残さを原料として、加熱乾燥、発酵、液状化 (リキッド) 等の加工処理により飼料化したものです。

※ 「エコフィード (食品製造副産物等)」とは、食品工場から排出される食品製造副産物 (パン屑、とうふ粕等)、スーパーやコンビニ等から排出される余剰食品 (賞味期限切れ弁当等)、農場残さ (規格外野菜等) を飼料として活用しているものを指しています。

※ 「エコフィード (厨芥残さ等)」とは、飲食店等から排出される調理残さ (カット野菜屑等)、家庭や食堂等から出た食べ残し等を飼料として活用しているものを指しています。

注) 米ぬか、ふすま、油かす、ビートパルプを使用している場合には「その他」に記入願います。

注) MA米を使用している場合には、「その他」に記入願います。

4に○をした方はQ28へ
それ以外の方はQ34へ

Q28. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の今後の利用意向についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 飼料用米の利用を継続・拡大したい	→	希望数量 <input style="width: 50px;" type="text"/> t/年
2. 飼料用米の利用を減らすか中止したい	→	理由 <input style="width: 80%;" type="text"/>

Q29. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の買取価格についてお知らせください。

飼料用米の買取価格

西暦 年 月 時点

円/kg

Q30. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の加工についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 飼料用米は自社で加工している	→	Q32へ
2. 飼料用米は自社で加工していない		

Q31. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の加工委託・価格についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 加工費を買い取り価格に含む	→	加工費：	<input type="text"/>	円/kg
2. 加工費を買い取り価格に含まない	→	加工費：	<input type="text"/>	円/kg

Q32. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の仕入れ先をお知らせください。(各○はひとつ)

1. 生産者から直接仕入れ	→	1. 県内	2. 県外	3. 県内・県内両方
2. それ以外				

Q33. 【飼料用米を利用している方へ】飼料用米の輸送費の負担についてお伺いします。(○はひとつ)

1. 飼料用米の輸送費を負担している	→	輸送費：	<input type="text"/>	円/kg
2. 飼料用米の輸送費を負担していない				

Q34. エコフィードについてお知らせください。(○はいくつでも)

1. 食品残さ（食品製造副産物、余剰食品等）を加熱し、リキッド（液状）にして給与している	}	→	Q35へ	
2. 食品残さ（食品製造副産物、余剰食品等）を加熱し、ドライ（乾燥状態）にして給与している				
3. 加熱の必要のない食品残さ（食品製造副産物、余剰食品等）を集め、リキッド（液状）にして給与している				
4. エコフィード（パン屑、菓子屑等）を含む配合飼料として給与している				
5. 食品残さ(飲食店等から排出される調理残さや家庭・食堂等から出た食べ残し等)を加熱し給与している		}	→	Q36へ
6. その他飼料化方法（ <input type="text"/> ）				
7. エコフィードを利用していないが、利用を検討中・利用してみたい				
8. エコフィードを利用しているが、今後利用しないことを検討している				
9. エコフィードの利用の予定はない				

Q35. 【Q34で1～6と回答した方へ】エコフィードの入手先についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 自家配合（原料を購入・回収し、自ら加工処理を行う）	→	製造コスト	リキッド	<input type="text"/>	円/kg
			乾燥	<input type="text"/>	円/kg
2. エコフィード製造事業者等から購入	→	購入価格 (輸送費を含む)	リキッド	<input type="text"/>	円/kg
			乾燥	<input type="text"/>	円/kg

Q36. 【Q34で7～9と回答した方へ】エコフィードを利用するに当たり、課題となっていることをお知らせください。(○はいくつでも)

1. エコフィード又はエコフィード原料の安定確保が難しい	4. 製造施設や機器の導入に課題がある
2. エコフィードの原料の排出事業者が近隣にない	5. その他（ <input type="text"/> ）
3. エコフィードの飼料設計等調整技術に課題がある	6. 特に課題はない

経営動向についてお伺いします

Q37. 飼養頭数動向についてお伺いします。

①母豚（子取り用雌豚）の増減について

母豚の増減をお知らせください。（〇はひとつ、また増減の頭数をご記入ください。）

- 1. 母豚を増やした（増やした頭数 頭）
- 2. 変わらない
- 3. 母豚を減らした（減らした頭数 頭）
- 4. 母豚を飼育していない（該当しない）

Q38. 母豚増頭の理由について。（〇はいくつでも）

- 1. 後継者が経営に参加したため
- 2. 繁殖成績が低下し、出荷頭数を維持するため
- 3. 収益をアップするため
- 4. 近隣に土地を購入できたため
- 5. 出荷先から増頭の依頼があったため
- 6. 養豚農家減少を見越した投資
- 7. 事情があって減頭していたのを戻した
- 8. その他（具体的に： ）

Q39. 母豚減頭の理由について。（〇はいくつでも）

- 1. 疾病対策などで一時的に減頭している
- 2. 母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した
- 3. （飼料など）コスト高騰で規模を縮小した
- 4. 高齢化で労働が厳しい
- 5. 従業員等労働力が確保できない
- 6. 廃業予定
- 7. 委託・預託農場になるため
- 8. 環境対策のため
- 9. その他（具体的に： ）

②肥育豚の増減について

Q40. 肥育豚の増減をお知らせください。（〇はひとつ、また増減の頭数をご記入ください。）

- 1. 肥育豚を増やした（増やした頭数 頭）
- 2. 変わらない
- 3. 肥育豚を減らした（減らした頭数 頭）
- 4. 肥育豚を飼育していない（該当しない）

Q41. 肥育豚増頭の理由について。（〇はいくつでも）

- 1. 後継者が経営に参加したため
- 2. 繁殖成績が低下し、出荷頭数を維持するため
- 3. 収益をアップするため
- 4. 近隣に土地を購入できたため
- 5. 出荷先から増頭の依頼があったため
- 6. 養豚農家減少を見越した投資
- 7. 事情があって減頭していたのを戻した
- 8. その他（具体的に： ）

Q42. 肥育豚減頭の理由について。（〇はいくつでも）

- 1. 疾病対策などで一時的に減頭している
- 2. 母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した
- 3. （飼料など）コスト高騰で規模を縮小した
- 4. 高齢化で労働が厳しい
- 5. 従業員等労働力が確保できない
- 6. 廃業予定
- 7. 委託・預託農場になるため
- 8. 環境対策のため
- 9. その他（具体的に： ）

Q43. 今後の経営動向についてお知らせください。(○はひとつ)

- 1. 規模拡大予定
- 2. 増減なく、現状を維持していく
- 3. 規模縮小予定

Q46へ

Q44. 規模拡大について。(○はひとつ)

- 1. 今年中に規模拡大を計画している
- 2. 4年以内に規模拡大を計画している
- 3. 具体的な計画はないが、規模拡大を検討したい

Q45. 規模縮小について。(○はひとつ)

- 1. 今年中に規模縮小を計画している
- 2. 4年以内に規模縮小を計画している
- 3. 具体的な計画はないが、規模縮小を検討したい

豚肉生産に関する意識について

Q46. どのような豚肉生産を目指していますか。(○はいくつでも)

- 1. 実需者のオーダーに基づき生産
- 2. 脂肪交雑の良いものなど特色ある豚肉生産
- 3. SDGs※やアニマルウェルフェアへの配慮など消費者の多様な価値観に対応した生産
- 4. 品質を保ちながら低コスト生産
- 5. 消費者ニーズは把握しているが、豚肉生産の上では特に対応していない(できていない)
- 6. その他(具体的に:)
- 7. あてはまるものはない

※ SDGsとは:「持続可能な開発目標」の略で、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標。畜産分野では、環境負荷低減、持続的な食料システムの構築、及びこれらの消費者への理解醸成の推進などが該当します。

Q47. 上記の豚肉を生産するために、どのようなことに取り組んでいますか。(○はいくつでも)

- 1. 飼料を工夫している
- 2. 種豚の血統・交配方法を工夫している
- 3. 飼養管理方法を工夫している
- 4. その他(具体的に:)
- 5. 特に取り組んでいることはない

環境対策についてお伺いします

<悪臭苦情についてお伺いします>

Q48. 悪臭苦情について過去1年間にあてはまるものをお知らせください。(○はひとつ)

1. 過去1年以内に悪臭苦情を住民等から直接言われた
2. 過去1年以内に悪臭苦情を県・市・町・村等行政を介して言われた
3. 過去1年以内に悪臭苦情をその他方法で言われた
4. その他(具体的に:)
5. 過去1年以内に悪臭苦情はない

<ふん尿処理の方法についてお伺いします>

糞尿の処理方法について「ふん(分離処理)」「尿(分離処理)」「混合処理」の各項目に当てはまるものをお知らせください。(○はいくつでも)

Q49. A.ふん(分離処理)の方法※1

1. 堆肥化(開放式) ※2
2. 堆肥化(密閉式) ※3
3. 廃棄物として処理(処理方法不明)
4. その他(具体的に:)

Q51. C. 混合処理の方法

1. 堆肥化(開放式) ※2
2. 堆肥化(密閉式) ※3
3. 液肥化処理
4. メタン発酵処理
5. 浄化処理
6. 下水道または農業集落排水への放流
7. 廃棄物として処理(処理方法不明)
8. その他(具体的に:)

Q50. B.尿(分離処理)の処理方法

1. 液肥化処理
2. メタン発酵処理
3. 浄化処理
4. 下水道または農業集落排水への放流
5. 廃棄物として処理(処理方法不明)
6. その他(具体的に:)

※1 他者に処理を委託している場合は、委託先での処理方法を選択してください。(例えば、生ふんを堆肥センターに運び、そこで開放式の堆肥化処理をしている場合は、「堆肥化(開放式)」を選択。
なお、委託先での処理方法が不明の場合は、「廃棄物として処理(処理方法不明)」を選択してください。

※2 堆積式、通風装置つき、攪拌機による堆肥化等、密閉式処理以外のもの

※3 縦型コンポスト等、密閉式のもの

<汚水浄化処理施設についてお伺いします>

Q52. 畜舎汚水等を処理して河川等に放流（排水）するため、汚水浄化処理施設を持っていますか。（○はひとつ）

1. 持っている	2. 持っていない
----------	-----------

Q53. 【Q52で「1. 持っている」と回答した方へ】（○はひとつ）

汚水浄化処理施設をこの一年で改修・新設しましたか。

1. 改修・新設した
2. 改修・新設していない

Q54. 【Q52で「1. 持っている」と回答した方へ】（○はひとつ）

施設や機械の更新を計画していますか。

1. 計画している
2. 計画していない

Q55. 【Q52で「2. 持っていない」と回答した方へ】（○はひとつ）

規模拡大等に伴い汚水処理施設を新設する意向がありますか。

1. 意向がある
2. 意向がない

Q56. 水質汚濁防止法の特定施設の届出をしていますか？

（○はひとつ）

1. 届出をしている
2. 届出をしていない（不要である）

Q57. 年1回以上、水質検査をしていますか？（○はひとつ）

1. 年1回以上、水質検査をしている	→	Q58へ
2. 年1回以上、水質検査をしていない	→	Q59へ

Q58. 水質検査値（1年間に複数回測定している場合は、そのうちの最大値及びその測定月を記入）をお知らせください。

1. 硝酸性窒素等※1（暫定排水基準400mg/L、適用期限：2025年6月）	西暦	年	月	実施	mg/L
2. 全窒素※2（暫定排水基準：130mg/L、適用期限：2023年9月）	西暦	年	月	実施	mg/L
3. 全リン※2（暫定排水基準：22mg/L、適用期限：2023年9月）	西暦	年	月	実施	mg/L

※1 アンモニア、アンモニア化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物（アンモニア性窒素×0.4、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素の合計量）

※2 全窒素及び全リンについては、規制対象地域外の場合は、記入不要です。

注）暫定排水基準は、段階的に引き下げられています。将来的には一般排水基準となる可能性があります。その可能性を念頭において施設の整備・管理が必要です。

注）一般排水基準（硝酸性窒素等：100mg/L、全窒素：120mg/L、全リン：16mg/L）

アニマルウェルフェアについてお伺いします

Q59. 「アニマルウェルフェア（以下、AWという）の認知度についてお知らせください。（○はひとつ）

1. AWという言葉を知っている又は聞いたことがある	→	Q62へ
2. AWという言葉を知らない		

※我が国では、国際的なAWの指針であるOIE（国際獣疫事務局）の指針にも則した「アニマルウェルフェアの考え方に対応した家畜の飼養管理指針」（（公社）畜産技術協会作成）を定めているところです。

Q60. 畜産技術協会発行の飼養管理指針を知っていますか。（○はひとつ）

1. 知っている
2. 知らない

Q61. AWに配慮した飼養管理を行うに当たり、課題となっていることをお知らせください。（○はいくつでも）

1. 課題はない	5. 飼養頭数を減らす必要がある
2. 生産コストが上がる	6. 何から取り組んで良いのかわからない
3. 農場生産性が下がる	7. その他
4. 対応する人員不足	(具体的に：)

豚熱ワクチンについてお伺いします

Q62. 豚熱ワクチンの接種状況についてお知らせください。(○はひとつ)

1. 接種している (家畜防疫員が実施)	→	現在の接種価格	<input type="text"/>	円/頭
2. 接種している (知事認定獣医師が実施)	→	現在の接種価格	<input type="text"/>	円/頭
3. 接種していない				

Q64. 【非接種の方へ】豚熱ワクチンの接種について (○はひとつ)

1. 接種範囲に指定されればしたい
2. 接種範囲に指定されなくてもしたい
3. 接種したくない

Q63. 【接種の方へ】豚熱ワクチンの接種価格について (○はひとつ)

1. 妥当
2. 高い
3. 安い
4. その他 ()

Q65. 地域別豚熱ワクチン接種により受けた影響をお知らせください。(○はいくつでも)

1. 肉豚出荷に影響があった
2. 子豚販売に影響があった
3. 種豚販売に影響があった
4. 精液販売に影響があった
5. 種豚購入に影響があった
6. 精液購入に影響があった
7. 肥育素豚購入に影響があった
8. 県をまたぐ自社内での農場移動 (繁殖農場→肥育農場等) に影響があった
9. その他 ()
10. 影響はなかった

Q66. 豚熱ワクチンの接種に対する考え方をお知らせください。(○はひとつ)

1. 現在の接種地域の指定条件に合致する県だけ接種すれば良い
2. 全国で接種すべきである

最後に、ご意見・ご要望などお聞かせください

Q67. ご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートは終了です。ご回答ありがとうございました。

養豚農業実態調査報告書
令和4年度

令和5年3月31日 発行

発行所 一般社団法人 日本養豚協会(JPPA)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-15 高栄ビル 2階

電話 03-3370-5473 FAX 03-3370-7937

印刷所 株式会社アイキ

禁無断転載

